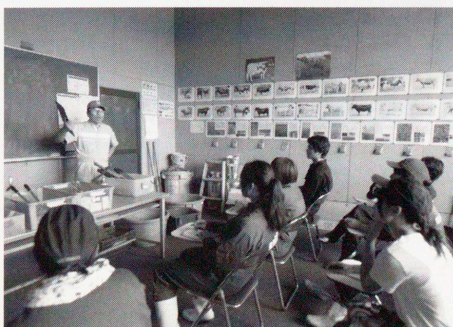


ふじみの



No.49

東京農大畜友会



巻頭言

畜産学科長 半澤 恵



畜友会の機関誌「ふじみの」第四十九号の発刊に当たり、ご挨拶申し上げます。
まずは卒業生の皆さん、おめでとうございます。正に光陰矢のごとし。あつ
という間の大学生活だったことと存じます。ここで得た経験は生涯の宝、皆さ
んを一回りも二回りも大きく成長させたことでしょう。明日から、立場が変わ
り、周りの見る目が変わったとしても、明日の皆さんは今日の皆さんと繋がっています。ですから安
易に簡単な答えを求めず、かたや足下を見すぎて夢を失うことなく、困難な時こそ堂々と胸を張って、
生きてください。ピンチこそチャンスです。くれぐれも健康に留意し、社会で大いに活躍されること
を期待しています。そしてたまには帰巢本能を発揮して、厚木キャンパスを、出身研究室を訪ねてき
てください。いつでも皆さんの訪問を待っていますよ。

在校生の皆さんは、これまでの大学生活を振り返り、自分の将来設計を踏まえた上で様々なことに
思い切ってチャレンジし、晴れて卒業式を迎えた時に、胸を張って喜びを噛みしめられるように、頑

張ってください。

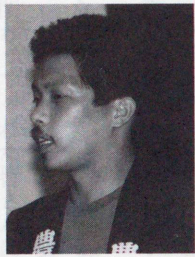
新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本誌には、先生方、学生諸氏による寄稿文に加えて研究室、収穫祭など、畜産学科に関する様々な情報が掲載されています。畜友会は、畜産学科の学生を正会員、大学院生や教職員を特別会員とする親睦団体です。新入生歓迎会から、収穫祭・体育祭、卒業生送別会まで、大学生活を楽しく充実したものにしていただけます。勉強に励むと共に畜友会の活動にも積極的に参加し、畜産学科を思いっきり盛り上げてください。そうすればきっと、生涯の仲間に出逢い、その仲間と共に他では味わうことのできない貴重な体験ができると思います。大学は、自分なりの学び方、考え方を見つけ、社会が求める新たな価値を創造する力や、自分で課題を発見し、それを自ら解決する力を身につける場です。楽しく充実した大学生活を送られることを祈念しています。

結びに、本誌発刊にあたって、快くご寄稿下さった皆さま、並びに編集に携わった畜友会の役員諸氏および関係各位に心より感謝申し上げます。

平成二十五年三月吉日

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長 川 添 友 誠



卒業と別れの季節、春光の中にも何かもの悲しさを感じたりする今日この頃、今年も「ふじみの」第四十九号を発行することとなりました。

さて、本誌は畜産学科の先生方及び、学生達の原稿、去年一年間の事業報告をもとに記載しています。

昨年は、厚木キャンパスに移動し早くも十三年が経ち、「厚木キャンパス」が地域に浸透し、より土台が形成され落ち着いてきた様に思います。今後まだまだ変化しつつありますが、その中で学生一人一人が自ら感じた「夢」や「希望」、また「努力」や「不安」などの文章が載せられています。ぜひ、隅々まで御覧いただけましたら幸いです。

ふじみの

目次

巻頭言

畜産学科長 半澤 恵 1

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長 川添 友誠 3

同窓会だより

同窓会会長あいさつ 畜産学科同窓会会長 渡邊 誠喜 6

畜産振興会

東京農業大学畜産振興会 便り 畜産振興会会長 半澤 恵 8

研究室だより

家畜繁殖学研究室 10
 家畜育種学研究室 13
 家畜生理学研究室 16
 家畜飼養学研究室 18
 畜産物利用学研究室 21
 家畜衛生学研究室 23
 畜産マネジメント研究室 26

ふじみの寄稿原稿(教員)

畜産学科に着任して 中村 優 28
 新人ですが、高齢です 谷口 信和 29

集う学友

農大生活 4年 穂保 秀光 30
 収穫祭とともに 3年 西谷 耕平 31
 農大で得たかけがえないもの 2年 樋口 佳菜 32
 あつという間の1年間 1年 情野 幸衛 33

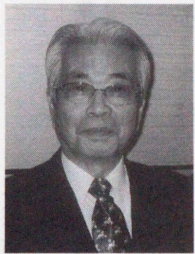
畜友会だより

平成二十四年度畜友会活動報告 34
 平成二十三年度畜友会決算報告 35
 平成二十三年度収穫祭特別会計収支決算報告 36
 平成二十四年度畜友会予算 37
 平成二十四年度畜友会役員 38
 第十三回厚木キャンパス収穫祭 39
 第一二二回体育祭事業報告及び結果報告 40
 東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則 48

第十二回厚木キャンパス収穫祭・
 第一二二回体育祭各部門委員長より

幸せな日々 統一本部委員長 3年 川添 友誠 54
 みなさんありがとう 特別企画委員長 3年 黒沢 文香 55
 臙脂と紺、あなたはどっち? 宣伝隊長 3年 野迫 昌平 56
 畜産神輿、ナンバーワン! 神輿隊長 3年 粟野 隆彦 57
 たのしかった、うんどうかい。 体育祭委員長 3年 清水みらい 58
 関わってくれた皆さんに感謝 樽装飾委員長 3年 吉原 麻代 59
 ミシン!ミシン! 装飾委員長 3年 水主 裕太 60
 9人の色で染まった家畜苑 家畜苑委員長 3年 高崎 淳史 61
 編集後記 編集委員長 3年 宇畑 泰子 62

同窓会だより



同窓会 会長挨拶

畜産学科同窓会・本学名誉教授

会長 渡 邊 誠 喜

一昨年の東日本大震災・原発事故被害の一日も早い復興が待たれるところでありますが、被災者の皆様にお見舞い申し上げます。

最近は何の内外にいろんな大きな問題―領土問題、TPP問題、食糧生産問題、農地放棄・耕作放棄の問題、青少年の教育問題等―が派生してきており、これら問題解決には挙って当たらなければならぬであろうし、早く解決しなければならぬと感ずるところであります。

さて、卒業生の皆さん！ ご卒業おめでとうございませ。皆さんの学部四年間、また、大学院二年あるいは五年間、この東京農業大学厚木キャンパスにて勉学に勤しまれ、講義に、実験実習に、そしてクラブ活動に精励され、多くの

と農大精神を以て、世のため、人のために活躍されることを祈念いたします。

新入生の皆さん 皆さんは多くの大学の中から伝統ある東京農業大学農学部畜産学科を選択、見事合格、ご入学されたこと心からお慶び申し上げます、大いに歓迎いたします。大学農学部の中で畜産学科を名乗る大学は他にありません。申すまでもなく、農学部は農・林・畜産業に関わる学問のみならず、環境・栄養など人間を取り巻く諸問題を解決するための生物のあらゆる可能性・特性を生かした「命の科学」、すなわち、農学は生命の根源を科学する学問分野であります。畜産学は食糧生産はもとより生命科学や環境科学をも包含し、更にはこれらのフロンティア部門をも研究する学問分野です。

新入生諸君は今後、長い伝統の中で培われてきた農大精神を身につけ、文武両道を旨として勉学とクラブ活動などに精励され、生涯の友となる素晴らしい友人と良き恩師を見つけ楽しい大学生活を勝ち取ってもらいたい。そして、創意工夫と自省を念頭に、常に思慮・分別を弁え、挑戦すること拒まず、自己PR力を養うことにも心を配って欲しい、とおもいます。そして、四年後には農大畜産学科に在籍していた証を示せるよう、証造りに心かけてください。

卒業生並びに新入生のご健闘を祈り、同窓会長のご挨拶といたします。

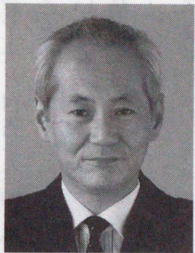
友人をつくり、人格豊かな畜産技術者として本日、目出度く農学士、畜産学修士あるいは畜産学博士の学位を取得されました。同窓会を代表して心からお慶び申し上げます、同窓会へのご入会を歓迎致します。また、この晴れの日待ち焦がれておられたご父母の皆様にも祝意を表したいと思います。

畜産学科は昭和二十二年四月に専門部畜産科として千葉県茂原市に設置され、昭和二十四年に新制大学令により農学部畜産学科となり、昭和三十四年から三十六年にかけて世田谷キャンパスへ、そして再度平成十年から十二年にかけて厚木キャンパスへ移転しました。大学院は昭和六十一年四月に農学研究科に畜産学専攻修士課程として、平成二年に博士後期課程として増設されました。

この間の学部卒業生は約9千名に達し、多くの大学院修了者をも世に送り出し、彼らは国の内外において畜産学・畜産業界並びに関連産業界の中核となつて華々しく活躍しております。

本同窓会は昭和六十三年に学科創設四〇周年を記念して、会員相互の親睦と情報交換の場を提供することを第一義とし、併せて学科学生教育への援助を目的として創設されたものであります。

最近ではグローバルゼーション謳歌のもと、生存競争の激しい中ではありますが、単に排他的にはならず、「以和為尊」を旨とし、他を助け合う心を持って頂きたいと思えます。卒業生諸君には厳しい社会情勢ですが、諸君の活躍の場は必ずあります。東京農業大学畜産学科で培った学術・技術



東京農業大学畜産振興会 便り

東京農業大学畜産振興会

会長 半澤 恵

東京農業大学畜産振興会が発足して、早二十二年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。そこで本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介します。

本会は東京農業大学農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生の教育・研究の向上に資するために、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。会の運営には学内外から本会の役員として理事、監事が選任され、理事会で必要事項が審議決定され、運営にあたっています。一方、役員以外の評議員によって評議員会を組織し、理事会での審議・決定内容について承認を得ることになっています。

により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から寄付を賜った原資を基金として設立されましたが、その後、逐次拡大してきた事業を遂行するため、

- 一 東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金
- 二 賛助会員会費
- 三 一般寄付金

などを資産に加え賄われています。より一層の充実した事業展開のためには更なる原資が必要です。

卒業生には本会の趣旨をご理解いただき、後輩学生の育成のため是非ご支援を賜りたく願います。特に本会から表彰を受けた方々は本会の活動を心に留めおいて下さい。

在学生諸君には本会の目的に叶う事象が生じた場合には本会を有効に活用され、充実した学生生活を送られるよう祈念し、振興会便りとします。

具体的な事業内容として、平成二十四年十一月現在、奨学生を毎年二〜四年次生の各学年から一名ずつ計三名、延べ六十七名採用、優秀卒業論文賞を毎年一名、計二十二名に授与、姉妹校留學生並びに渡米農業実習生への交通費の一部を過去三名に支給、さらに関連学会誌に学術論文を掲載・発表した学生、または学会で口頭発表した学生、延べ二百四十五名を表彰しています。また、経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行っています。

平成九年四月にここ厚木キャンパスが開学し、畜産学科が移転しましたが、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十二期の学科学生ならびに第十期の博士前期課程大学院生、第七期の博士課程後期大学院生が卒業します。移転から二年間は、教員が世田谷キャンパスにおり、厚木キャンパスは学生のみという状態でした。そこで本会では、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌一頭、雄一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜はいずれも、厚木キャンパスでお披露目の後、本学富士畜産農場に繋養されました。リヤマは毎年収穫祭の折に畜産学科統一本部で実施する家畜苑の時に人気者になっています。黒毛和牛は優秀な二世も誕生するなど、それぞれ実習・実験の材料として活用されています。

また、これら諸事業の成果を取り纏めたものを平成十年より毎年振興会会誌として発行しており、こちらも十五号を数えるまでになりました。

本会設立の契機は平成二年十二月一日、不慮の交通事故

研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室では、動物の生殖や発生のメカニズムの解明に取り組んでいます。具体的には、生殖細胞、胚、それに由来する産子の正常性に及ぼすストレス、加齢そして病気の影響について、遺伝子やタンパクの発現およびその制御機構、内分泌そして動物の行動などを対象に研究しています。また発生工学および生殖補助技術を応用して、絶滅危惧種などを含む動物の遺伝資源の保存や増殖に役立つ技術の開発を目指しています。

平成24年度は主に動物の卵胞発育を支える分子メカニズムの解明と加齢が胚に与える影響について研究し、'Reproduction, Reproduction in Domestic Animals, Theriogenology, Zygote, Journal of Reproduction and Development'等の国際誌に成果を掲載し、3回の国際学会と11回の国内学会にて発表を行いました。

研究室では日々の研究に加え、新入室員歓迎会、年2回のスポーツ大会、伊豆への研修旅行、卒業生送別会など年間を通じて様々な行事を行います。各々が自分の目標に力を注ぎ、忙しくも充実した研究室生活を送っています。

氏名 卒業論文題目

指導
教員

青木 真帆	アミノ酸の添加がブタ体外成熟卵子のmTOR-S6Kシグナルに及ぼす影響	岩田 門司
秋元 知海	ニワトリ精子貯留腺と受精率との関係	桑山 門司
阿部 顕正	種豚の育成と調教	岩田 門司
石川 智望	加齢がウシ初期胚の分割率およびミトコンドリア数に及ぼす影響	岩田 門司
伊藤 知里	ニワトリ精原幹細胞の培養方法の検討	桑山 岩田
今井 美耶	岐阜地鶏の抱卵行動の継続と中断が抱卵班に及ぼす影響	桑山 門司
漆山 竣介	体外成熟後のブタ卵子のミトコンドリア数増減に関する研究	岩田 門司
大井 綾野	ブタ初期卵胞由来卵子の体外発育における顆粒層細胞の交換の影響	桑山 岩田

大越 裕太	当研究室における顕微受精条件の確立	岩田 門司
大里 志穂	加齢がウシの胞状卵胞の顆粒層細胞の酸化能力に及ぼす影響	岩田 門司
太田 祐介	超高齢和牛卵巢の卵子形成過程の観察	岩田 門司
大西 智美	ウズラ精原幹細胞の培養方法の検討	桑山 岩田

奥出 知廣	透明帯に接着した精子のアポトーシス出現率	岩田 門司
小田健太郎	グルコースがブタ初期卵胞卵細胞の体外発育に及ぼす影響	桑山 岩田
加藤 翔	ブタ卵子の活性化後の気相条件が割球数と核数に及ぼす影響	岩田 門司
川名 宏典	卵巢の保存がウシ初期卵胞卵細胞の体外発育能力に及ぼす影響	岩田 門司
齊藤 慎	葉酸がウシ初期卵胞由来卵細胞のクロマチン形態、体外発育および発生能力に及ぼす影響	岩田 門司

奥出 知廣	透明帯に接着した精子のアポトーシス出現率	岩田 門司
小田健太郎	グルコースがブタ初期卵胞卵細胞の体外発育に及ぼす影響	桑山 岩田
加藤 翔	ブタ卵子の活性化後の気相条件が割球数と核数に及ぼす影響	岩田 門司
川名 宏典	卵巢の保存がウシ初期卵胞卵細胞の体外発育能力に及ぼす影響	岩田 門司
齊藤 慎	葉酸がウシ初期卵胞由来卵細胞のクロマチン形態、体外発育および発生能力に及ぼす影響	岩田 門司

奥出 知廣	透明帯に接着した精子のアポトーシス出現率	岩田 門司
小田健太郎	グルコースがブタ初期卵胞卵細胞の体外発育に及ぼす影響	桑山 岩田
加藤 翔	ブタ卵子の活性化後の気相条件が割球数と核数に及ぼす影響	岩田 門司
川名 宏典	卵巢の保存がウシ初期卵胞卵細胞の体外発育能力に及ぼす影響	岩田 門司
齊藤 慎	葉酸がウシ初期卵胞由来卵細胞のクロマチン形態、体外発育および発生能力に及ぼす影響	岩田 門司

奥出 知廣	透明帯に接着した精子のアポトーシス出現率	岩田 門司
小田健太郎	グルコースがブタ初期卵胞卵細胞の体外発育に及ぼす影響	桑山 岩田
加藤 翔	ブタ卵子の活性化後の気相条件が割球数と核数に及ぼす影響	岩田 門司
川名 宏典	卵巢の保存がウシ初期卵胞卵細胞の体外発育能力に及ぼす影響	岩田 門司
齊藤 慎	葉酸がウシ初期卵胞由来卵細胞のクロマチン形態、体外発育および発生能力に及ぼす影響	岩田 門司

奥出 知廣	透明帯に接着した精子のアポトーシス出現率	岩田 門司
小田健太郎	グルコースがブタ初期卵胞卵細胞の体外発育に及ぼす影響	桑山 岩田
加藤 翔	ブタ卵子の活性化後の気相条件が割球数と核数に及ぼす影響	岩田 門司
川名 宏典	卵巢の保存がウシ初期卵胞卵細胞の体外発育能力に及ぼす影響	岩田 門司
齊藤 慎	葉酸がウシ初期卵胞由来卵細胞のクロマチン形態、体外発育および発生能力に及ぼす影響	岩田 門司

坂本 真実	ウシ卵管上皮細胞に接着した精子のATP含量減少メカニズムの解明	岩田 門司
櫻井 宏太	体外成熟培地への葉酸の添加がブタ卵細胞の体外発育とヒストンアセチル化状態に及ぼす影響	桑山 岩田
佐藤 悠紀	テストステロンがニホンウズラの拘束ストレスによるコルチコステロン分泌に及ぼす影響	桑山 門司
澤田 哲	当研究室における繁殖和牛の飼育繁殖管理	岩田 門司
下村 匡史	ウシ卵丘細胞に接着した精子のアポトーシス出現率	岩田 門司
進藤麻美絵	アミノ酸の添加がブタ体外成熟卵細胞および卵丘細胞中のグルタチオン濃度に及ぼす影響	桑山 岩田
高崎可奈枝	ブタ卵細胞中のミトコンドリア数とリン酸化型P38MAPK発現との関係	岩田 桑山
竹田 拓郎	卵中への糖類添加がニワトリ胚の発生速度と性比に及ぼす影響	桑山 門司

田中 美冴 ウシ卵管上皮に接着した精子に占めるアポトシス精子の割合 岩 門 司

中野 俊 ウズラ精原幹細胞のニワトリ精巢への移植と精子形成の確認 岩 桑 山 田

松崎 彰子 E-cadherinの添加がウシ初期胞状卵母由来卵子の体外発育および発生能力に及ぼす影響 岩 門 司 田

宮良 央 加齢がウシ卵管上皮細胞の性状に及ぼす影響 岩 門 司 田

村上 郁 グルコース濃度がウシ初期胞状卵母由来卵子のクロマチン形態、体外発育および発生能力に及ぼす影響 岩 門 司 田

吉原 杏奈 ブタ初期胞状卵母由来卵子のミトコンドリア数の変化に影響を及ぼす因子の探索 岩 桑 山 田

小岩 悠樹 ブタ卵巢中の卵胞数に関する研究 岩 桑 山 田

家畜育種学研究室

家畜育種学研究室では、家畜改良の基礎となる遺伝学、育種学、分子生物学的見地から広範囲にわたる研究活動が実施されています。

当研究室では、野村こう講師、高橋幸水助教の指導の下、4年生33名、3年生27名によって構成され、室員各自の自覚と相互の協力によりそれぞれの目標に向かって日々研究が続けられています。主な研究テーマとしては家畜(ウシ・ヤギ・スイギュウ)を供試動物として、マイクロサテライトマーカーやミトコンドリアDNA遺伝子情報による連鎖地図作製、系統遺伝学的研究、品種分化に関する研究などが行われています。

研究室では一年を通して新入室員歓迎会、定期総会、収穫祭への参加、研修旅行、特別講演会、卒業論文発表会などが行われ、室員は実験動物の管理、毎週行われているゼミ、定例室員会、それぞれのテーマに即した研究などを日々行っています。さらに研究活動は学内にとどまらず、先生方や院生、学生により学会発表などが精力的に行われています。

氏名	卒業論文題目	指導
荒川 英恵	スイギュウのミトコンドリアDNA全塩基配列の解析	野村 高橋

内林 正法 Y染色体遺伝情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究 野村 高橋

大山 美紅 ミトコンドリアDNA全塩基配列に基づくヤギの系統遺伝学的研究 野村 高橋

岡田 幸子 ミトコンドリアDNA全塩基配列に基づくヤギの系統遺伝学的研究 野村 高橋

小川 佑人 Y染色体マイクロサテライトDNA多形情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究 野村 高橋

菊田 潤哉 マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究 野村 高橋

熊井 祥大 スイギュウのミトコンドリアDNA全塩基配列の解析 野村 高橋

熊井 敬成 マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究 野村 高橋

黒田 涼 マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究 野村 高橋

小林 桜 マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究 野村 高橋

小林 航	家畜における非侵襲的資料からのDNA抽出技術の開発	高野 村 橋
齋藤 悟	ヤギのFSHβサブユニット遺伝子の多形情報	高野 村 橋
須賀原怜人	マイクロサテライトDNA多形情報を用いた家畜ヤギの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
鈴木香名子	スイギュウのミトコンドリアDNA全塩基配列の解析	高野 村 橋
鈴木 涼佑	家畜における非侵襲的資料からのDNA抽出技術の開発	高野 村 橋
竹澤久美子	マイクロサテライトDNA多形情報に基づく東・東南アジアにおけるウシの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
竹島 大智	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析	高野 村 橋
田附 矩明	家畜における非侵襲的資料からのDNA抽出技術の開発	高野 村 橋
田中 紗希	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析	高野 村 橋
山本 宗吉	Y染色体マイクロサテライトDNA多形情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
吉岡 和真	マイクロサテライトDNA多形情報に基づく東・東南アジアにおけるウシの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
荻野 航	スイギュウのミトコンドリアDNA全塩基配列の解析	高野 村 橋
宇田川祐太	マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究	高野 村 橋
田中 千尋	頭蓋骨画像情報解析によるヤギの品種分化に関する研究	高野 村 橋

土屋 美佳	マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究	高野 村 橋
船山あゆ美	マイクロサテライトDNA多形情報を用いた家畜ヤギの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
益子 崇典	Y染色体遺伝情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
三波 聡太	マイクロサテライトDNA多形情報に基づく東・東南アジアにおけるウシの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
三好 諒	スイギュウ血清アルブミン遺伝子の多型解析	高野 村 橋
村野 聖弥	マイクロサテライトマーカーを用いたヤギの連鎖地図作製に関する研究	高野 村 橋
森川あかり	マイクロサテライトDNA多形情報に基づく東・東南アジアにおけるウシの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
森本 遥香	Y染色体遺伝情報に基づくスイギュウの系統遺伝学的研究	高野 村 橋
山下由実香	ヤギのFSHβサブユニット遺伝子の多形情報	高野 村 橋

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室は半澤恵教授をはじめ、平野貴助教、原ひろみ講師、去年定年退職された吉田非常勤講師のご指導のもと、大学院生五名、学部四年生31名、学部三年生32名で構成されています。

本研究室では、家畜、家禽に発現する生理的な特徴やその生理機構の遺伝的支配に関する研究を行っています。研究対象の動物によって大きく三つに分けられ、①ニホンウズラに関する研究、②ウマに関する研究、③牛に関する研究に分けられています。

学年ごとの活動としては、三年次に生理学に関する基礎的な知識、技術を身につけるために講義、ゼミ、実験実習、二泊三日の富士農場実習を行うとともに、日常的な実験動物の飼育管理、院生、学部四年生の卒業論文の補助とともに実験別の知識を得るために課題別実験を行っています。四年次にはこれまでに得た知識、技術をもって各々が興味を持った前述の①から③の研究を引き継ぎ、あるいは新規のテーマを先生との議論により決定し、卒業論文作成を行っています。院生は各々の学位論文のテーマに対して日夜研究し、その結果を学会などで発表しています。

年間の主な行事として、新入生歓迎会、収穫祭文化芸術展、収穫祭模擬店、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会、年二回の納会、家畜舎大掃除、週一回のゼミナールなどがあります。

氏名 卒業論文題目 指導員

相澤 健人	フリーバランス添加飼料を給与した子牛の血中亜鉛、レチノールおよびβカロテン量の変動に関する研究	吉田
赤川 康明	ニホンウズラA系および鹿兒島系のTLR15遺伝子の多型解析	原 澤
石井 文弓	フリーバランス添加飼料を給与した子牛の免疫獲得能に関する研究	吉田
太田 周作	ニホンウズラ DBBA1 遺伝子の多型解析	半 澤
大西絵梨香	ニホンウズラ Mx 遺伝子の構造解析	半 澤
楠山 紘太	成熟ニホンウズラの各種臓器におけるTLR4の免疫組織染色による分布・局在差異の明確化	原 澤
熊田 陽太	ニホンウズラ CD1 遺伝子の臓器発現	半 澤
佐藤 晋介	競技馬の運動内容及び状態別における赤血急浸透圧脆弱性と血液性状年間変動	半 澤
澤上 豊	ウマ赤血球の分化成熟段階の転写制御因子 GATA-1, 2 遺伝子の mRNA 発現量の変動の比較	原 澤
椎名 卓也	ニホンウズラ HEP21 遺伝子の多型解析	平 野 澤

椎原 梨奈 ニホンウズラ HSP70 遺伝子 (CjHSPA2) S, U TR の多型解析 半 澤

鈴木 慧 ウマ赤血球の分化成熟過程における GATA-1, 2 遺伝子の mRNA 発現解析 原 澤

鈴木 宏崇 ニホンウズラの CD8α および β 遺伝子の多型解析 原 澤

玉井みなみ ニホンウズラ精子性状の個体差が受精率・産卵率および孵化率に及ぼす影響 原 澤

保 龍太郎 ニホンウズラ K および ND 系の腸内細菌叢の同定 原 澤

中島 僚大 ニホンウズラ BTN2 遺伝子の多型解析 平 野 澤

中山 朝香 成熟ニホンウズラの各種臓器における TLR15 の免疫組織染色による分布・局在差異の明確化 原 澤

名和 里奈 ニホンウズラ TAP2 遺伝子の多型解析 半 澤

新妻 幸 ニホンウズラの TLR2 type1 および type2 遺伝子の多型解析 原 澤

西田 雄飛 ニホンウズラ HSP90A1 における遺伝子型間の熱応答性の比較 半 澤

橋本 彩 成熟ニホンウズラの各種臓器における TLR2 の免疫組織染色による分布・局在差異の明確化 原 澤

原田 千絵 フリーバランス添加飼料を給与した子牛の血中脂質の変動に関する研究 吉田

平井 隆臣 ニホンウズラ TRIM39, 2 遺伝子の多型解析 平 野 澤

元原 有貴 ニホンウズラ K, P および ND 系の血球性状 原 澤

森本 一弘 家禽における高病原性トリインフルエンザに対する免疫分子応答機構の調査 半 澤

山口ひかる 競技馬の運動内容及び状態別における赤血球浸透圧脆弱性と血液性状年間変動 半 澤

米倉 美房 ニホンウズラ ND 系および Y 系の TLR15 遺伝子の多型解析 原 澤

渡辺 卓也 ニホンウズラ P および ND 系の腸内細菌叢の同定 原 澤

土内 大樹 ニホンウズラ各臓器における Mx 遺伝子 mRNA 発現量の比較解析 半 澤

彭城 隼希 ニホンウズラ HSP90 遺伝子 (CjHSP90α) の intron1 における多型解析 半 澤

高館 篤史 ニホンウズラ B 系の腸内細菌叢の寒天培養法による同定 半 澤

家畜飼養学研究室

飼料と管理、栄養の3本柱を中心に環境への配慮も含め安全で効率的な畜産物の生産をめざし追求しているのが家畜飼養学です。本研究室では、脂肪をエネルギーとして燃焼するのに必要なカルニチンや抗酸化作用を持つカテキンなどを与えた際に家畜に及ぼす影響を研究しています。他にも、未利用資源の飼料化、アミノ酸要求量の推定など幅広く研究しています。

各研究は祐森誠司教授、池田周平教授、黒澤亮助教の指導のもと日々研究を行っており、卒業論文としてはもちろん、成果は学術研究会の場で毎年発表されています。

研究室活動は、室員交流や団結のための歓迎会や納会など様々な行事、家畜生産現場へのインターンシップや研修旅行での畜産関連施設見学、飼料成分分析実験、収穫祭への参加(本年度 模擬店・ココロ焼き、文化学術展・身近な資源の有効活用)・神奈川県ブランド生産を目指して)などがあり、研究室生活は充実し室員は楽しく過ごしています。先生方は実験や実習の場でも、事業においても時に厳しくご指導を頂けるので、勉学や飼養管理技術のみならず社会人としてのあり方まで学ぶことができます。

氏名 卒業論文題目 指導教員

阿久津陽平 牛用精子保存液へのL-カルニチン添加が凍結融解後の精子生存指数及び形態に及ぼす影響 野口

池之谷貴正 暑熱環境下で飼育する肥育豚への甘藷ツルサイレージの給与が血液性状に及ぼす影響 祐森

猪瀬 真宏 牧草サイレージ調整時の納豆粉末添加が発酵品質に及ぼす影響 野口

大胡田剛史 納豆粉末添加牧草サイレージの牛における嗜好性 野口

大澤 香織 飼料中の窒素形態の差異がダッチ種幼兔の成長に及ぼす影響 祐森

大矢 愛子 ミミズの硬質タンパク質処理に関する検討 祐森

甲斐 響 馬具に浸透させたアスピリンによる衛生害虫の飛来抑制 祐森

景山 理恵 茶カテキン類添加飼料の給与が肥育豚の免疫能に及ぼす影響 祐森

中谷悦次郎 ココナッツ油添加が鶏(ジュリア系)の産卵に及ぼす影響 祐森

中村 紀博 L-カルニチンを給与した増体系肥育牛の成長に関する研究 野口

根本 裕輝 オリブ油製脂肪酸カルシウムの給与が乳用種肥育牛の筋間脂肪の脂肪酸組成に及ぼす影響 祐森

長谷川裕貴 乳牛へのバイパスリジン給与が血中リジン濃度及び血中カルニチン濃度に及ぼす影響 祐森

日高 恭江 神奈川県における酪農経営の問題点とその解決策の検討 祐森

堀内 裕太 ホンダワラ給与後の交雑種肉用子牛における粗繊維消化率について 祐森

増山 慎一 鶏の精液希釈液へのL-カルニチン添加が胚発生に及ぼす影響 祐森

丸田 良子 飼料中の窒素形態の差異が日本白色種幼兔の成長に及ぼす影響 祐森

南方 諒 暑熱環境下で飼育する肥育豚への甘藷ツルサイレージの給与が成長と飼料消化に及ぼす影響 祐森

川勝 未稀 寒冷環境下で飼育するラットへのL-カルニチン給与が体脂肪の利用に及ぼす影響 池田

川口 恵子 農業生産副産物給与によるミミズの養殖に関する研究 祐森

黒田 貴子 ホンダワラの給与が交雑種肉用子牛の血液性状に及ぼす影響 池田

郡山 貴義 L-カルニチンを給与した肉質系肥育牛の成長に関する研究 野口

酒井真智子 豚凍結精液の融解液へのL-カルニチン添加が授精能に及ぼす影響 野口

佐藤 有望 盲腸切除ラットへのプロピオン酸給与がその成長に及ぼす影響 祐森

滝原 雅貴 茶カテキン類添加飼料の給与が肥育豚の肉質に及ぼす影響 祐森

武内 佳康 茶カテキン類添加飼料の給与が肥育豚の成長と飼料成分の消化に及ぼす影響 祐森

寺田 直子 乳牛へのバイパスリジン給与が泌乳量と乳成分に及ぼす影響 祐森

轟木ちひろ 暑熱環境下で飼育する肥育豚への甘藷ツルサイレージの給与が肉質に及ぼす影響 祐森

美馬 則貴 高知県における褐色和種肥育経営展開の 池田 祐森
 課題

宮澤 亮二 盲腸切除ラットへの吉草酸給与がその成 池田 祐森
 長に及ぼす影響

畜産物利用学研究室

本研究室は室長の鈴木敏郎教授をはじめ、多田耕太郎准教授、中村優助教、清水香那助手のご指導のもと、大学院生4名、4年次生34名、3年次生34名、総勢74名で構成される室員が、研究室のキャッチコピーである「畜産食品の未来を科学する」をモットーに、それぞれ活発に日々の研究活動などに取り組んでいます。

具体的には、乳・肉・卵に含まれる各成分の物理・化学的特質ならびに栄養・生理学的機能特性を品種、個体、分子レベルで研究しています。また、先進的な食品加工技術（超高压処理、超臨界処理など）を用いた新しい畜産食品の研究開発、未利用状態にある畜産副産物（内臓、骨、皮など）を食料資源として活用する研究を行なっています。研究成果は食品成分の機能性や保存性の向上、製品加工工程の改善および新しい加工法の開発に利用されています。

年間の主な活動としては、週一回行われるゼミナールの他、ハム・ベーコンの製造と収穫祭での販売、卒業論文発表会、新人生歓迎会、前・後期納会、研修旅行、卒業生送別会などがあります。

氏名 卒業論文題目 指導教員

大山 竜太	超高压処理後に形成されるゲル構造に関する研究	鈴木 木
津村 誠		
澁谷 睦	超高压処理が卵黄・卵白のゲル形成に与える影響に関する研究	鈴木 木
堀内 康宏		
川内 瑛仁	超高压処理が乳タンパク質のゲル形成に与える影響に関する研究	鈴木 木
田口 朋弥		
鈴木 健二	超高压処理後の肉色変化に関する研究	鈴木 木
鈴木 雄太		
高野明日香	GABA生成乳酸菌をスターターとし	鈴木 木
中西 梢子	た生ハムの製造に関する研究	多田 木
浜田 英利	醤油麹を添加した骨エキス抽出残渣発酵	鈴木 木
正島 康裕	食品の開発に関する研究	多田 木
小池 太一	焼酎麹を添加した骨エキス抽出残渣発酵	鈴木 木
尾崎 遼	食品の開発に関する研究	多田 木
宮田 裕美	清酒麹を添加した骨エキス抽出残渣発酵	鈴木 木
吉田 萌	食品の開発に関する研究	多田 木
相原 壮志	去勢雄山羊肉の理化学的性状に関する研究	鈴木 木
松藤 洋平		多田 木

岸 司	超高压処理と水晒しを併用した豚心臓ソーセージの製造に関する研究	鈴 多	田 木
佐藤 貴一	ソーセージの製造に関する研究	鈴 多	田 木
遠藤雅比呂	GABA生成乳酸菌を用いたソーセージの製造に関する研究	鈴 多	田 木
津覇みなみ	同上	鈴 多	田 木
鷹箸 唯杏	GABA生成乳酸菌を用いたヨーグルトの製造に関する研究	鈴 多	田 木
山本 諒	同上	鈴 多	田 木
内田 研人	GABA生成乳酸菌を用いたチーズの製造に関する研究	鈴 多	田 木
田中 智大	同上	鈴 多	田 木
竹内 薫	チーズに含有される高抗酸化性ポリフェノールに関する研究	鈴 中	村 木
宮崎 翔太	同上	鈴 中	村 木
清廣まりな	高抗酸化性ポリフェノールを含有するチーズ製造に関する研究	鈴 中	村 木
益満 美沙	同上	鈴 中	村 木
竹森遼太郎	エミューの卵および肉を利用した食品の開発に関する研究	鈴 中	村 木
荷上 洋朗	同上	鈴 中	村 木
西岡 芽	今日の日本における食品偽装の諸類型	鈴 多	田 木
吉田 太一	畜肉製品に含まれる機能性成分に関する研究	鈴 多	田 木

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室は、室長の村上寛史教授、村田亮助教、そして大学院の山本孝史教授の下、大学院生二名、四年生三十二名、三年生三十二名で構成されています。また、本年度から研究生も一名新たに加わりました。当研究室では、家畜別に牛班、豚班、鶏班と実験動物班の四班に分かれ、動物たちの日々の健康を維持するとともに飼育管理を通して各動物との接し方や育て方を学んでいます。

調査研究としては、「農場から食卓まで」に関わる家畜衛生及び食品衛生を対象に、腸管内細菌の生体内移行による臓器汚染、各農場における豚の呼吸器疾患や仔牛下痢症等の原因調査、人獣共通感染症として重要な豚のレンサ球菌やブドウ球菌、カビの毒素、細菌の薬剤耐性、各種消費薬の効果とその有効利用、新菌種の登録やその病原性などを院生や研究生そして学部生と共にそれぞれの目的を持って進めています。

主な行事として、新入生歓迎会、研修旅行、収穫祭（今年度、文化芸術展では昨今問題となっている肉やレバー等の生食に関連して食中毒菌をメインとした「身近に潜む細菌」、模擬店ではしし汁）、餅つき、慰霊祭、その他に定例会や納会等があります。これらの行事を通して各員は団結を深め、個々が目的意識を持って有意義な研究室活動を行っています。

なお、平成二十四年度の卒業論文の題目は次の通りです。

氏名	卒業論文題目	指導員
林 恵利華	仔牛下痢症に対するネッカリッチの効果	村 田
赤城 由華	富士農場・ホロホロチョウのサルモネラモニタリング成績	山 本
姉帯 壮史	栃木県の一養豚場における肺炎起因菌保有調査	村 田
石井 杏那	関東地方のイヌにおける <i>Brucella Canis</i> 抗体保有調査	村 田
井手本 愛	豚および豚舎における <i>Streptococcus suis</i> 強毒株の保有調査	村 田
伊藤 汐里	ブロイラーにおける <i>Campylobacter jejuni</i> の定着臓器と生体内移行	村 上
太田ちひろ	生乳におけるコアグララーゼ陰性ブドウ球菌の鑑別法の確立	村 田
大場 千博	食肉に特異的な分布をするカビについて	村 上
小野寺達郎	豚舎の蚊における日本脳炎ウイルスを中心としたアルボウイルス保有調査	村 田

兼城 書 カビの発生とペットフードの水分含量の
関係についての研究 村上 高鳥

北島 裕也 マウスおよび新生子豚に対する
Arcanobacterium abortusis の病原性試験 村上

小林 由音 *Mycoplasma equirhinis* はヒツジの口腔内
に常在するか 山本

佐藤 典子 富士農場・採卵鶏のサルモネラモニタリ
ング成績 山本

佐野 藍花 病豚から分離した *Streptococcus suis* にお
ける毒性関連遺伝子の調査 村田

柴田 紗希 富士農場のウシにおける生乳中の細菌保
有調査 村田

末永 隼人 大規模酪農場の生乳中細菌の薬剤感受性
調査 村田

杉本 陽平 畜産環境におけるクロゴキブリの病原細
菌保有調査 村田

高石 未来 エスカリウのグラム陰性菌に対する静菌
作用ならびにエスカリウの散布が牛床の
細菌数に及ぼす影響 山本

滝村 佳織 肥育豚における豚回虫の感染状況調査 村上

竹島 梓 プロバイオティクスを投与して飼育した
ブリーダーにおける *Campylobacter jejuni*
の盲腸内変化 村上

寺村 依舞 犬の口腔内における病原細菌の保有状況
調査 村田

時田 萌子 豚および馬扁桃における放線菌感染病巣
について 村上

中塚 武利 イヌにおけるブドウ球菌属の菌種同定と
その保有調査 村田

鍋倉竜太郎 *Actinobacillus pleuropneumoniae* 各血清型
間の交差反応に関する研究 山本

新田 文祐 栃木県の一養豚場から分離された細菌株
に対する薬剤感受性試験 村田

縫田 早希 仔ウシ由来大腸菌のエンロフロキサシン
耐性に関する研究 村田

林 双葉 *Actinomyces suis* に類似する豚分離放
線菌と *A. denticolens* との遺伝学的比較 村上

樋口 摩耶 市販犬猫用トイレの抗菌効果に関する調
査 村上

古川 大貴 一食鳥処理場搬入ブローラーの村上
Campylobacter jejuni 保菌状況調査

穂保 秀光 イヌにおけるスプレー式口腔ケアの効果
と口腔内細菌叢の変化 村田

矢島佐恵佳 エスカリウのグラム陽性菌に対する静菌
作用ならびにエスカリウの散布が牛床の
細菌数に及ぼす影響 山本

柳田連太郎 器物におけるカビの発育に関する研究
村上 高鳥

畜産マネジメント研究室

畜産マネジメント研究室では平成二十四年三月に小栗克之教授が定年退職され、同年四月から新たに東京大学から谷口信和教授を迎え、新たな態勢で研究室活動を展開しています。平成二十四年度の研究室員は四年生二十三名、三年生二十三名の計四十六名となり、谷口信和教授と信岡誠治准教授の指導の下で研究室活動を行っています。主に畜産経営・経済や流通問題を軸として、流通・販売・消費などの諸過程と関連付けながら課題解決に向けて実習やゼミなどを通して解決策を見出すべく研究活動を行っています。また、当研究室には畜産農家の後継者が多いことから、後継者の養成に対しても尽力しています。

研究室の研修旅行は、三重県伊賀市にある「モクモク手づくりファーム」を訪ねて、畜産経営の六次産業化の現場を体感するとともに、トップ経営者の話を伺い、経営理念やマーケティングの考え方や手法などを具体的に学びました。

卒論研究では研究室活動の一環として、東京農大伊勢原農場棚沢水田において三十アールの水田で飼料用米の試験栽培を行い、低コスト栽培法の開発とその生産物(粳とワラ)を利用した畜産物の生産やバイオエタノールの試験にも取り組んでいます。また、新たに東京農大東日本支援プロジェクト研究に加わり、福島県南相馬市の現地で飼料用米のセシウム吸収抑制試験も行っています。これにより、飼料自給率の向上や海外依存型の畜産経営からの脱却を目

指しています。これらは農学科や世田谷キャンパスの関係研究室などの共同研究で行っています。平成二十四年度の卒業論文題目は以下のとおりです。

氏名	卒業論文題目	指導教員
井上 恩	飼料用米の直播栽培法の検討―特に鳥害対策を軸として―	谷口信岡
岡増紗弥佳	粳米粉の食用としての活用方法の検討と効果	谷口信岡
小野崎良介	栃木県における水田との複合畜産経営の経営分析の比較	谷口信岡
折笠 晋	セシウム汚染土壌での飼料用米のセシウム吸収抑制法の開発	谷口信岡
加藤 耕平	畜産経営における複数部門導入の意義と問題点 ―肉用牛部門と酪農部門の結合を通して―	谷口信岡
上前 亮	日本における食肉消費構造の変化と国内生産の対応 ―BSE発生前後から今日まで―	谷口信岡

神谷 徳樹 沖縄県における銘柄豚の経済性と成立条件 谷口信岡

川上 栄地 種雄牛の相違が子牛価格形成に与える影響 谷口信岡
―与論家畜市場を心として―

川口 純平 肉用牛への飼料用米給与の影響 谷口信岡
―富山県の事例を中心として―

榊原 啓太 肉牛生産におけるブランド化販売の可能性 谷口信岡

重 翔太 奄美群島の肉用牛経営の規模拡大と飼料生産の確立 谷口信岡

末延 大吾 飼料用米のバイオエタノール残渣の飼料化について 谷口信岡
―飼料として活用する際の基準の明確化―

相馬 潤 乳牛へのゼオライト給与による生乳放射線量低下の検討 谷口信岡

高島 健 飼料用米のバイオエタノール残渣の飼料化について 谷口信岡
―飼料として活用する際の基準の明確化―

中村 仁人 家族経営の枠を越えた企業的養豚の成立条件 谷口信岡

濱田 和希 飼料用米の直播栽培の経済性の検討 谷口信岡

原 恵 セシウム汚染土壌での飼料用米のセシウム吸収抑制法の開発 谷口信岡
―生育ステージ毎のセシウム吸収量―

日高 宏樹 大学一年生を対象とした牛乳消費アンケートに基づく牛乳の消費拡大策の検討 谷口信岡

松田 慈司 セシウム汚染土壌での飼料用米のセシウム吸収抑制法の開発 谷口信岡
―セシウム吸収抑制を中心として―

横田 圭哉 直播栽培での収量性と経済性について 谷口信岡

ふじみの寄稿原稿(教員)

畜産学科に着任して

畜産物利用学研究室

中村

優

東京農業大学 生物応用化学科および大学院を卒業・修了後、生物応用化学科の助手として一年間勤務させて戴いた後、昨年(平成23年)の4月1日より農学部 畜産学科にお世話になることになりました。着任当時は東日本大地震が発生して間もない頃で、度重なる余震や計画停電など、その影響が強く残っていました。さらに、私自身、キャンパスも学部も異なる環境でのスタートであったことから、期待と不安を抱きながら衛生研前の急坂道を上ったことを思い出します。

厚木キャンパスでの新生活で感じたことは、学生との距離感が近いこと。世田谷キャンパスよりも学生数が少なく、講義棟や研究棟など生活空間も纏まっているため、学生と触れ合う機会が多く、学生も気さくに話しかけてくれたことは、新参者である自分にとって有り難く、嬉しいものでした。

畜産学科の教員として二年目を迎え、昨年度以上に仕事の量も質も向上させようと考えていますが、私自身まだまだ未熟であり、時には自分の方向性を見失いそうになるこ

新人ですが、高齢です

畜産マネジメント研究室

谷口

信和

毎年、正月を迎えると初日の出が気になる。ところで、誰もが考えるように日の出とは太陽が地平線から顔を出す瞬間であり、日の入りとは太陽が地平線に姿を隠す瞬間である。もしそうだとすると、春分や秋分の時でも昼間の時間は夜の時間より長くなる。なぜなら、日の出の瞬間に見えた太陽の上縁が夕刻に地平線に接したときではなく、太陽の直径にみえる分だけ地平線の下に没した時が日の入りとなるからである。

また、日の出の曙光が見える瞬間も実は太陽の上縁が地平線に接した時刻ではない。太陽光線が大気圏を通過するときには大気の厚い方に屈折するから、太陽の上縁が地平線から34分角下にある時点ですでに太陽光線は地平線上にいる人の目に到達しているからである。その上、太陽は点ではなく円の大きさをもっているから、太陽の中心を基準に考えると、太陽の視半径分の16分角を加えた50分角、太陽の中心が地平線の下に到達した時点が日の出、日の入りの時刻となる。

理論的な日の出・日の入りは太陽の中心が水平線に一致した時刻で定義されるが、実際上は太陽の中心が50分角地平線の下に来たとき、つまり常識的な理解の時刻で定義されていることになる。

常識だけでは複雑な天体現象は正確には理解できない。

ともあります。しかし、そのような時に心の軸となり、道標として導いてくれたのは周りにいる人でした。

数学の世界では「 $1+1=2$ 」ですが、人の力は「 $人+人=∞$ 」で、人には無限の可能性が秘められていると思います。身の周りの化学物質も単体では有機体とはなりません。異なる原子が結合することで、プラスチックや洗剤、食品など、人の生活を豊かにする物質になるように、一人一人が手を携えることは大きな力を生み出します。

また、皆さんは高校、大学受験など多くの岐路に立ち、その度にベストな選択をしてきたと思います。その中で、無数の選択肢や日本の総人口(約1億3000万人)などを考慮すると、これまでに出会った人との出会いは、まさに奇跡だと思いませんか。この奇跡の連続が生み出した「縁」を大切にしながら、これからも人とのネットワーク(繋がり)をさらに深めていって欲しいと思います。私自身も畜産学科の教員として、学生の可能性を引き出すお手伝いのできればと考えています。

最後になりましたが、寄稿の機会を与えてくださったことに感謝致します。

そこに天文学Ⅱ科学が登場する意義が存在している。しかし、科学が常識に勝っているというわけではない。科学によって裏付けられた常識が我々の日常生活を現実的には律しているからである。

大学はこうした科学を研究する教員によって担われ、常識を出発点としながらも常識の枠を超えた新たな知的発見を使命としている。そこでは新たな知的発見のための格闘Ⅱ研究における最新の成果をもって教育が行われているところに高等教育機関としての独自の意義が存在している。学生のみなさんはそうした教員から単に「出来上がった知識Ⅱ過去の知識を学ぶだけでなく、「新たな知識」を獲得するために格闘する姿に接することができるからである。なぜならば、社会に出てから様々な分野とレベルで新たな課題に遭遇しながら道を切り拓いていくことが求められる大学生にとって、教員の知的格闘における体験の共有こそ、大学にしかできない貴重な時間であり、空間であるからだ。

今でもこんな思いを持ち続けながら私は東京農業大学の畜産学科に赴任してきた。すでに名古屋大学で助手として2年、愛知学院大学で講師・助教授として4年、東京大学で助教授・教授として29年間の教員生活を送ってきたから、決して若くはない。しかし、今一度「青春する」積もりで、こうした教員生活の最後の6年間を締めくくる意図をもって着任した。自然環境と研究環境に恵まれ、心が洗われるような純粋な学生諸君が沢山いる農学部に来て、ますます忙しくなったが、志あるみなさんの研究室訪問を心から期待している。「求めよ、さらば与えられん」は人類普遍の真理である。

農大生活

畜産学科

4年 穂保 秀光

長いと感じていた片道2時間の通学生活がもうすぐ終わりを迎えようとしている。ありがとう小田急。僕の睡眠不足解消と試験勉強の足掻きができたのは君のおかげである。

4年間の大学生活を思い出して、まず印象に残っているのが1年のサークル勧誘で言われた先輩たちの一言である。「畜産学科に入ったんだ、御愁傷さま。」最初は何の事だか分らなかつたが、農・バイセラ学科に比べて格段に多い必修科目と化学実験・生物実験でその謎が解けた。必修を落としたら卒業できなくなると活を入れ、試験勉強に臨んだ3年間だつた。僕のノートはこの期間とても人気者になる。理由は自分のノートじゃ勉強にならないから。少々のギブアンドテイクもあり、若干呆れつつなんか大学生活しているなと感じる一時であつた。後輩に貸した、とある授業の教科書は「これで試験が乗り切れました。これ神の教科書です！」と言われて返された時はいささかビックリしたが。

所属していたピアノ&合唱サークルはとてもマイナーな

収穫祭とともに

畜産学科

3年 西谷 耕平

農大生としての生活がついに3年目を迎えた今、振り返ってみると自分の大学生活は収穫祭抜きでは語れないものであつた。

兵庫県南部に位置する淡路島から畜産を学ぶために本州に上陸し、東京農業大学に入学し体育館で行われた勧誘活動で話が盛り上がったという理由だけで入った総務部、直感で退屈しなさそうだと、という理由で入った特別企画本部というように後先考えずに行動をした結果、1年生のころから収穫祭実行委員会として東京農業大学の1大イベント「収穫祭」の運営を行ってきた。

1年生の頃は特別企画の一つとしてオリジナルのヒーローショーを行い、自分は台本作成、音響選択、舞台での動きを考え、同じ学年の総務特企の仲間には深夜までヒーローショーの練習につき合わせセリフを覚えてもらい、自分は悪役としてヒーロー役の友人とアクションの練習を深夜の人気のない第2講義棟の前で行い日に日にやつれていく生活をしていった。

2年生の頃は一般企業に収穫祭へ協賛をしてもらえないか交渉する協賛担当の担当長になり、企画の賞品のことで

サークルである。練習場所(部室)は分かりづらい且つ開けて良いのか?と感じる扉の向こう側にあり、そこを潜れば歌とピアノがハーモニーを奏でるとても楽しい所に出る。主な年間サークル活動は、収穫祭の発表に向けての練習のみである。たった1回の発表だからこそ出場の辞退はあり得ない。去年の東北大震災のとき練習場所に入れなくなってしまったが、時間と場所を見つけて練習し収穫祭の発表を無事迎えられることは、サークル活動の中で一番の思い出になっている。

3年になり念願だつた家畜衛生学研究室に入ることができた。理由は畜産学科の中で唯一犬を飼っている研究室だからである。犬班に入りシャンプーや血液検査、糞検査日々の世話は実際に動物を飼ったことのない僕にとっては初めての経験ばかりでも新鮮だつた。飼われているビーグル犬達はいつも煩くてあまり指示は聞いてくれないが、それぞれに豊かな個性があり、可愛い奴らである。犬班のメンバーでバーベキューに行ったり、旅行に行ったりと楽しい思い出もたくさんできた。

畜産学科は確かに大変だつた。けれどもそれだけじゃない数々の思い出がこの4年間にある。それらはきつとこれからの困難を乗り越える力になってくれるはずだ。

総務特企だけでなく統一特企の方にウザイと思われるのではないかと言うくらい連絡を取ったり、2人の協賛担当の後輩と来る日も来る日も電話の前に居座り、2年連続でやつれていく生活をしていった。

3年生では収穫祭実行委員会の実行本部をはじめとした6本部、3学科統一本部の委員長・隊長と各本部に所属している役員の3年生をムービーにまとめるメモリーズとなり実行委員みんなの作業風景を撮るため早いときは朝の5時から、遅いときは深夜2時までビデオ片手にニヤニヤしながらピンクの腕章をつけ3年生を追い掛け回し、もはや避けられぬ運命を感じながらやつれていく生活をしていった。

収穫祭実行委員会役員としての嵐のような3年間が終わった今、自分は多くの人とかけがえのないつながりを得ることができた。

1年生の頃は同学年の特別企画本部の仲間たちと、2年生の頃は総務特企・統一特企の役員みんなと、3年生の頃は収穫祭実行委員会の3年生役員みんなと。

おそらく1年生の頃、勢いと直感に任せて総務部に入っていないければこんなに多くの人と知り合いになり笑って話をすることはできなかっただろう。

東京農業大学の誇る1大イベント「収穫祭」。農大生として自分は収穫祭と共に生き、収穫祭で友を得ることができた。

農大で得たかけがえないもの

畜産学科

2年 樋口 佳菜

この2年間を振り返ってみたら、早いものでもう、大学生活の折り返し地点に来てしまっていました。色々なことがありましたが、「今楽しい？」と聞かれれば自信を持って「はい」と答えることができます。

私が農大に入学した2011年、私の地元福島県は東日本大震災で被災し、甚大な被害を受けました。日常が崩れゆく様子をこの目で見てきた私は「この故郷に元氣を取り戻す力になりたい、農大でたくさん経験と経験を積んで帰るんだ」と心に決めていました。しかし、私が農大で巡り会ったものが考えていた以上にこんなにも貴重なものだとは思ってもみませんでした。

私は現在、教職課程を受講しています。将来は農業の教員として地元に戻り、教壇に立ちたいという夢があるからです。学習内容も増え、決して楽とは言えません。学科勉強との兼ね合いが大変で、いつもテスト前にはひいひい言いながら勉強していますが、同じく教員を目指す仲間もでき、楽しく学ぶことができます。

部活動では、YOSAKOIソーラン部「大黒天」に所属しています。毎月全国各地のお祭りやポランティアに参加し、たくさんのお客さんに笑顔と元氣をお届けしてい

ます。私は副代表を務めており、日常生活時間の8割は大黒天が占めているといっても過言ではない生活を送っています。正直楽しいことばかりではないし、毎日時間に追われてばかりだし、参加費等は一人暮らしには痛い出費ですが（父、母ごめんさい！）、得られるものはとても大きいです。なにより、新しい自分を発見できるチャンスに恵まれています。

私はこの大学2年間のなかで、大切なものを得ることができました。「仲間」です。

私には「ぐっさんは忙しいねえ」なんて言いつつも、物覚えの悪い私の勉強に付き合ってくれたり、ご飯を食べに行ったり、鍋を囲みながら予約しておいた昼ドラの展開にガヤを入れてみたり、作った学習指導案を囲んでアドバイスを皆で言い合ったりできる友達がいいます。学科の友達にも、大黒天の皆にも、普段支えてくれていた両親にも、この場を借りてお礼を言いたいんです。「みんなありがとう！あいしてるよー！」こんな樋口を今後ともよろしくお願ひしますね。

さて、3年生から所属の研究室も希望通り無事決まり、ほっと胸をなでおろしているところですが、安堵している暇はありません。これからは自分の人生に向けて、就活や採用試験に向けた準備もしなければならず、ますます時間に追われることでしょう。しかし、今しかやれないことはたくさんあります。

私は一人じゃない。見てみたい世界に手を伸ばして、がむしゃらに走り続けて、時には泣いて、そして笑って。残り二年を悔いまいよう全力で駆け抜けたいです。

あつという間の1年間

畜産学科

1年 情野 幸衛

東京農業大学に入学して早くも1年が経とうとしています。私の実家では畜産業を営んでいるのでこの農大畜産学科に入学しました。

入学した当時は慣れない一人暮らしや、慣れない学校に不安がありました。しかし今は一人暮らしにも慣れ、日々の生活で友達もでき、頼りになる面白い先輩にも出会えました。

前期は基礎的な知識を講義で学び、後期では前期で学んだ知識を使って実験などを行い、より専門的な知識を身に付けることができました。夏の農業実習では3泊4日で富士農場にお世話になりました。1日中牛、豚、鶏の世話の中で、健康観察、集卵、搾乳、去勢など普段できないことを経験し、とても充実した時間を過ごせました。

部活動はバスケット部に所属しており、大会に向けて練習を頑張っていました。訳あって休部もしていた時期もありました。でも、部員に「来れる時いつでも来なよ」と言ってくれるので、今は行けるときに行くようにしています。そんな仲間たちと農大イベントの収穫祭では模擬店でたませんを販売しました。準備から当日までみんな1つになっ

て楽しみながらできました。多くの方に「おいしかったよ」言っていた温かい気持ちになりました。

1年で最高に辛く、楽しかったのは友達と厚木から城ヶ島まで歩いて向かった旅です。夜中の2時に「今から旅行こうぜ」の一言で始まったこの旅。湘南の海が見えるまで走ったり、たまたま海の中を歩いたり、道に迷ったりなどいろいろなおもしろいことがありました。最初は元氣だったが、気が付いたら体の限界を超え、時間も遅くなったので残り3kmのところまでこの旅は終わりました。目的地までは着かなかつたけど失敗から学んだこともあり、16時間という思い出の旅になりました。後日自転車で城ヶ島へ行ったこともあり、行きは江の島経由で歩きの旅を思い出しながら無事城ヶ島に着き、それぞれ夢を語りこの場を後にしました。帰りは横浜経由でなんとか授業に間に合う時間に帰って来ました。移動距離143kmという充実した旅でした。

私ももうすぐ2年生になります。1年間ばかなことをしながらも、授業、様々な活動を頑張ってきました。来年中からはより専門的な講義もあり、研究室について考える必要があります。さらに忙しくなります。ただ自分のしたいこともやっています。ことわざに二兎追うもの一兎をも得ずとありますが二兎追うもの二兎得るの精神でそれに見合うだけの努力をして頑張っていこうと思います。

平成 23 年度 畜友会 収支決算報告

収支決算書 平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 5 月 31 日

I. 一般会計

収入の部

(単価：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考	
会 費	新 入 生 (H24年)	1,470,000	2,270,000	800,000	新入生：10,000 円×147 名
	編 入 生 (H24年)	10,000	35,000	25,000	①
	過年度分	450,000	1,705,000	1,255,000	在学生：10,000 円×45 名
普通預金利息	219	0	△219		
前年度一般会計繰越金	2,534,686	2,534,686	0		
H23 年度収穫祭特別会計からの繰入金	154,465	0	△154,465	収穫祭特別会計収支差額	
合 計 (A)	4,619,370	6,544,686	1,925,316		

①本来編入生の会費は 5,000 円ですが、1 名が 10,000 円支払っています。

支出の部

(単価：円)

科 目	決算額	予算額	差異	備 考
収穫祭特別会計費	700,000	700,000	0	
ふじみの印刷費	282,240	310,000	27,760	昨年度より冊子数を減らした為
卒業祝賀会費	180,525	180,000	△525	
卒業記念品費	279,135	227,000	△52,135	
新入生歓迎会費	284,338	289,449	5,111	②
消耗品費	0	30,000	30,000	
特別講演会費	0	30,000	30,000	
雑費	0	50,000	50,000	
予備費	0	4,728,237	4,728,237	
合 計 (B)	1,726,238	6,544,686	4,818,448	
収支差額：(A)－(B)	2,893,132			次年度繰越金

②震災の影響で、平成 23 年 6 月 9 日に行った為。

平成 23 年 6 月 9 日開催分 139,449 円と、平成 24 年 4 月 24 日開催分 144,889 円です。

平成 24 年度畜友会活動報告

平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

畜友会だより

平成 24 年

- 4 月 24 日 新入生歓迎会 (於 レストランけやき)
- 6 月 25 日 平成 24 年度畜友会定期総会
平成 24 年度畜友会・畜産学科収穫祭実行委員会 (統一本部) の
立ち上げ
(於 トリニティーホール)
- 10 月 17 日 第 13 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 121 回体育祭畜産学科統一本部開き
(於 レストランけやき)
- 10 月 20 日 厚木パレード (於 厚木一番街)
- 11 月 2 日 第 13 回厚木キャンパス収穫祭 前夜祭 参加
- 11 月 3 日 第 13 回厚木キャンパス収穫祭 参加
～4 日 (家畜苑、研究棟アート、特別企画、宣伝隊)
- 11 月 5 日 第 121 回体育祭 参加 (於 世田谷キャンパス)
- 12 月 3 日 第 13 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 121 回体育祭畜産学科統一本部慰労会 (於レストランけやき)
- 平成 25 年度
- 3 月 12 日 畜友会誌「ふじみの」49 号発行
- 3 月 21 日 平成 24 年度 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈 (於 厚木キャンパス)

平成 24 年度 畜友会予算

(自：平成 24 年 6 月 1 日 至：平成 25 年 5 月 31 日)

I. 一般会計予算

収入の部

科 目	H24 年度	H23 年度	差 異	備 考	
会 費	新 入 生 (H25 年)	2,160,000 ¹⁾	2,270,000	△ 110,000	
	編 入 生 (H25 年)	15,000 ²⁾	35,000	△ 20,000	
	過年度分	1,770,000 ³⁾	1,705,000	65,000	
雑 収 入	0	0	0		
前 年 度 繰 越 金	2,893,132	2,534,686	358,446		
合 計	6,838,132	6,544,686	293,446		

1) 新入生：10,000 円×216 名

2) 編入生：5,000 円×3 名

3) 過年度分：10,000 円×176 名+5,000 円×2 名

支出の部

科 目	H24 年度予算額	H23 年度決算額	差 異	備 考
収 穫 祭 特 別 会 計 費	750,000	700,000	50,000	
ふじみの印刷費	290,000	310,000	△ 20,000	
卒 業 祝 賀 会 費	180,000	180,000	0	
卒 業 記 念 品 費	222,000	227,000	△ 5,000	4 年 生 222 名 × 1,000
新 入 生 歡 迎 会 費	150,000	289,449	△ 139,449	
消 耗 品 費	30,000	30,000	0	
特 別 講 演 会 費	0	30,000	△ 30,000	
備 品	150,000	-	150,000	パソコン
雑 費	30,000	50,000	△ 20,000	
予 備 費	5,036,132	4,728,237	307,895	
合 計	6,838,132	6,544,686	293,446	

平成 23 年度 収穫祭特別会計収支決算報告

平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 5 月 31 日

II. 収穫祭特別会計

収入の部

(単価：円)

科 目	決 算 額	予 算 額	差 額	備 考
一般会計からの繰入金	700,000	700,000	0	
口 座 維 持 費	100	100	0	
合 計 (C)	700,100	700,100	0	

支出の部

(単価：円)

科 目	決 算 額	予 算 額	差 額	備 考
統 一 本 部	374,563	400,000	25,437	①
宣 伝 隊	43,411	50,000	6,589	②
特 別 企 画	0	0	0	
装 飾	0	50,000	50,000	
家 畜 苑	27,490	100,000	72,510	③
体 育 祭	100,071	70,000	△ 30,071	④
予 備 費	0	-	30,000	
口 座 維 持 費	100	100	0	
合 計 (D)	545,635	700,100	154,465	
収支差額：(C)-(D)	154,465	0	△ 154,465	

① 団結式、慰労会の料理代、飲み物代、雑費

団結式 185,237 円、慰労会 187,791 円

振込手数料 1,220 円、両替手数料 315 円

② 電動工具を買い替えた為。

③ 家畜搬入の為の交通費

④ 体育祭応援合戦の衣装代

上記の通り報告する。
平成 24 年 6 月 24 日

畜友会会長 半 澤 恵 印

監査報告書

畜友会会則第 9 章、29 条及び 30 条の規定に基づいて平成 24 年 6 月 22 日に平成 23 年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。

平成 24 年 6 月 22 日

高橋幸水 印
郡山貴義 印

平成 23 年畜友会監査委員

原ひろみ 印
高崎淳史 印

平成 24 年度畜友会役員

平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 5 月 31 日

役職(教員)	氏名	研究室
会長	半澤 恵	家畜生理学研究室
副会長	野村 こう	家畜育種学研究室
	桑山 岳人	家畜繁殖学研究室

・執行委員

委員長	3年 川添 友誠	畜産マネジメント研究室	
副委員長	3年 大村 捷	畜産マネジメント研究室	
	2年 式地 優貴	家畜飼養学研究室	(予定)
庶務	3年 水主 裕太	家畜飼養学研究室	
	2年 榎本 祥大	家畜生理学研究室	(予定)
会計	3年 林 未由	家畜生理学研究室	
	2年 牛丸 裕喜	畜産マネジメント研究室	(予定)
企画・渉外	3年 今井 星良	家畜生理学研究室	
	2年 本村 直丸	畜産マネジメント研究室	(予定)
編集	3年 宇畑 泰子	家畜衛生学研究室	
	2年 三瓶 かすみ	家畜生理学研究室	(予定)
監事(教員)	原 ひろみ	家畜生理学研究室	
	高橋 幸水	家畜育種学研究室	
監事(学生)	3年 高崎 淳史	畜産マネジメント研究室	
	2年 棚原 憲佑	家畜繁殖学研究室	(予定)

※学年は平成 25 年 3 月現在

特別会計予算

平成 23 年度 6 月 1 日～平成 24 年度 5 月 31 日

II. 特別会計予算(案)

畜友会援助費				農友会学科助成金				
収入の部				収入の部 (単位:円)				
科目	H24年度	H23年度	差額	科目	農友会厚木支部助成金			備考
					予算額	決算額	差額	
一般会計から繰入金	750,000 ^{a)}	700,000	50,000	畜産学科助成金	1,750,000	1,618,241	-131,759	
口座維持費	100	100	0	雑費 預金利息	10,000	420	-9,580	※3
合計(A)	750,100	700,100	50,000	合計	1,720,000	1,618,661	-141,339	
支出の部				支出の部				
科目	H24年度	H23年度	差額	科目	農大厚木支部助成金			備考
					予算額	決算額	差額	
統一本部	400,000	400,000		1 事務費	15,000	13,484	1,516	
宣伝隊	50,000	50,000	0	2 記録費	10,000	9,800	200	
特別企画	0	0	0	3 公用費	4,000	4,000	0	
装飾	50,000	50,000	0	4 交通費	190,000	119,520	70,480	※1
家畜苑	100,000	100,000	0	5 神輿代	130,000	129,887	113	
体育祭	70,000	70,000	0	6 パネル代	115,000	110,251	4,749	
備品	25,000 ^{b)}	-	25,000	7 応援合戦・衣装代	214,000	139,686	74,314	※2
口座維持費	100	100	0	8 学内装飾費	453,000	452,958	42	
予備費	55,000	30,000	25,000	9 収穫祭体験企画費	619,000	638,235	▲19,235	
合計(B)	750,100	700,100	50,000	鋼管リース代	84,000	87,081	▲3,081	
収支差額(A)-(B)	0	0	0	運搬代	220,000	240,840	▲20,840	
				装飾代	155,000	151,667	3,333	
				活動運営費	160,000	158,647	1,353	
				10 雑費	10,000	420	9,580	※3
				合計	1,760,000	1,618,241	141,759	

収入の部 a) の増額は支出の部 b) の備品、提灯、ミシンの購入のため

※1 今年度は、部員増加に伴い会議の参加人数を増やしたためです。

※2 今年度は、部員増加に伴い衣装代を増やしたためです。

※3 今年度より新設し、振込手数料代として支出致します。

第十三回厚木キャンパス収穫祭・第二二回体育祭事業報告及び結果報告

【事業報告】統一本部

畜産学科統一本部の第13回収穫祭での活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動、研究棟アート、特別企画、家畜苑、樽裝飾、体育祭を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては先生方と連絡を取り、畜産学科統一本部の各部門及び第13回厚木キャンパス収穫祭実行本部、同じ厚木にある農学科統一本部、バイオセラピー学科統一本部、また世田谷13学科統一本部そして本年度は、新たな試みとして、オホーツクキャンパスとも連携し、畜産学科統一本部をまとめて厚木キャンパスでの収穫祭、世田谷での体育祭を成功させるために2カ月間全力疾走しました。

本年度はオホーツクキャンパスが参加するなど体育祭での競争相手は増えましたが、それでも一年生から三年生の総勢54名で力を合わせて成功させることができました。

来年度も、どんな困難にも負けることなく、一年生と二年生それに新一年生一致団結し、今年の収穫祭・体育祭に負けないものをつくり上げられるよう頑張りたいと思います。

特別企画

特別企画とは屋外ステージで行う企画を作る、収穫祭の中でも3学科が一緒に行う部門である。

今年度の畜友会特別企画は、「相思相愛」「NBC」「OXゲーム」の三つを企画した。企画内容はもちろん、台本、背景を作り、衣装を考えた。企画の担当者や出場者、音響さんと念入りな打ち合わせをして本番を迎えた。収穫祭が近づくにつれて、近所の方々や、バイト先のお客さんに「収穫祭行くから頑張ってるね」「今年も楽しみにしてるよ」といったたくさんの声をかけていただけで、本当に嬉しかった。収穫祭当日はほとんどステージの側において、他学科の考えた企画を見ていて、盛り上がりつつ楽しかった。今年、自分は畜産学科特別企画の花形企画である「NBC」の司会を務めさせてもらった。花形企画というのもあり沢山の観客に圧倒させられながらも無事終演を迎えることができた。ステージ横で見ているだけでは味わうことのできない感動と達成感に包まれた。観客と一緒にあって、楽しく盛り上げられる企画を作ってくれた先輩や仲間を誇りに思った。来年自分もこんなステージを作りたいと思った。そして収穫祭に準備から全部に関わり、収穫祭が出来上がるまでには、たくさんの方が一生懸命働いているということと、本当に地域の方々から愛されている行事だと実感した。これからも農大生はもちろん、大人から子供まで、皆に愛される収穫祭を作っていけたらいいと思った。



宣伝隊

宣伝隊とは、東京農業大学厚木キャンパスのモチーフである大根と鮎の柄が入った白い浴衣に臙脂色の法被を羽織り足袋を履いて、厚木市内、市外のお祭りや周辺の駅に行き、ビラを配ったり、時には大根踊りなどの農大ならではのパフォーマンスも行いながら、収穫祭を宣伝する部門です。

収穫祭当日までの宣伝の活動には、八月に行われる「鮎まつり」のDANCE（ダンスを披露する祭り）の参加から始まり他にはジャズナイトフェスティバル、もんじえ祭りで農大をアピールし本厚木周辺各駅での宣伝や、色々なお店まわりビラやポスターを置かせてもらえるように収穫祭を宣伝してきました。そしていよいよ学内も盛り上がりつてきた十月には宣伝隊主催の大きなイベントである厚木パレードがあります。このパレードは厚木市の一番街で神輿を担ぎ農大生が厚木を盛り上げます。毎年大きな盛り上がりを見せていて、これで農大の収穫祭をたくさんさんのひとにアピールできています。

どの活動でも、沢山の人が「今年も行くからね、がんばってね。」と声をかけて下さり、収穫祭を楽しみにしてくださっているのだと嬉しく思い、やりがいを感じました。

収穫祭当日は、午前、午後、と二日間で計四回、野菜の無料配布を行います。今年は大きなトラブルもなく配り終えたのでよかったです。

来年度は今年よりも来場者数を増やせるように思い切った宣伝活動をしていきたいと思っています。

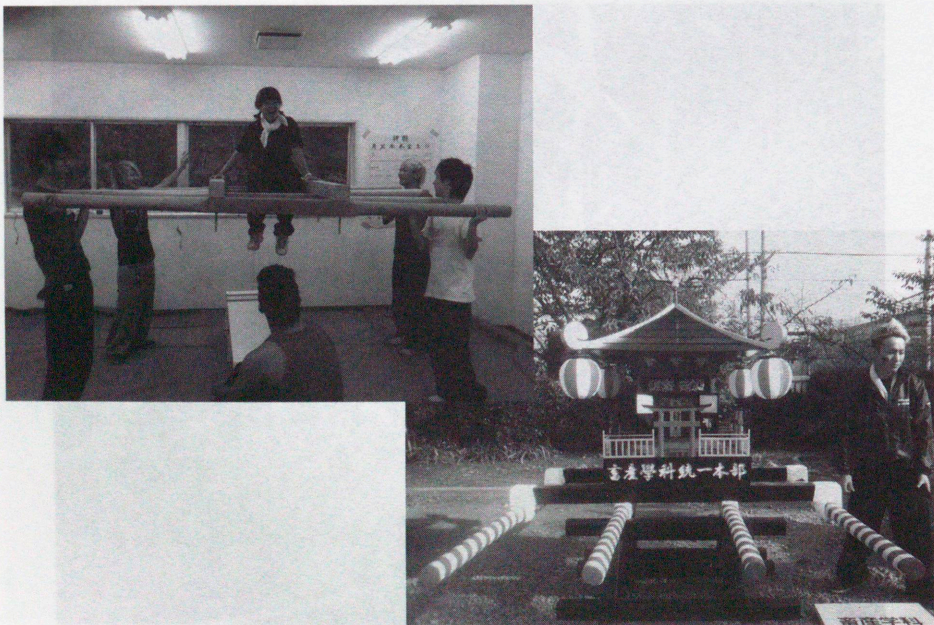
神輿

神輿は、厚木一番街で催される「厚木パレード」における収穫祭の宣伝や本祭を盛り上げるために、夏休みとほぼ同時にスタートし約二ヶ月間神輿の製作をしました。

今年も去年と同様に、本祭における厚木キャンパス内での一般投票と、世田谷キャンパスでの審査が行われました。

今年の畜産神輿は、担ぎ棒の色を紅白にし、見た目にもインパクトのある配色にしました。そして、土台側面には前後に「畜産学科統一本部」左右に「第百二十一回体育祭」「第十三回収穫祭」の文字を入れ切り抜き、裏側から和紙を張り内側から光を当てて文字を浮き上がらせるようにしたり、様々な工夫を凝らしやつの思いで完成させることができました。完成した神輿は、ひと目で畜産学科と分かる力強さを持った神輿らしい神輿という伝統を残しつつ自分たちのオリジナリティを取り入れることができ、本祭の厚木キャンパス一般投票では二位、世田谷キャンパスでは金賞という輝かしい成績を収めることができました。世田谷キャンパスでの後夜祭で、ひとときわ光り輝いていた自分たちの神輿に感動を覚えとても誇らしく思いました。

来年の神輿は、伝統である「神輿らしい神輿」は残しつつ、自分たちなりのアレンジを加え、自分たちが納得できる神輿を作り、厚木キャンパス一般投票一位、世田谷キャンパスでの二年連続金賞を狙いたいと思います。



体育祭

体育祭は収穫祭最後の行事として、世田谷キャンパスで行われます。大玉転がしや玉入れ、綱引き、リレーなど朝から多くの競技でどの学科もすごい盛り上がりを見せます。

その中でも体育祭の見所といえば、どの学科も何か月前から準備や練習を積み重ねてきた応援合戦があります。畜産学科は1ヶ月間ほぼ毎日全体練習をして夜通しで個人練習をしてきました。今年度の畜産学科の体育祭のテーマは「闘」でした。畜産学科全員で作り上げた「闘」は迫力があり、すばらしい1つの作品になりました。応援合戦は惜しくも6位と、表彰台に上がれなかったことは本当に悔しいですが当日は全員がだせる力を出し切り、最高の踊りが出来ました。

目標であった優勝には届きませんでしたが、今年度畜産学科の収穫祭の集大成として最高の盛り上がりだったと思います。

ご協力いただいた先生方、OB・OGの皆様や畜産学科の方々、本当にありがとうございました。

来年度の畜産学科は今年の悔しさをばねにして、すべてにおいて1位を取り、優勝旗とトロフィーを持って帰ってきます。楽しみにしてください。

櫓

櫓装飾とは、高さ4m50cm、横10mの巨大なパネルに各学科でそれぞれのテーマに沿った絵を描いて競い合うものである。

本年度畜産学科の櫓は例年とは違い、背景を水色にし、赤で模様を入れたり桜を散らしたりすることで、とても鮮やかな絵に仕上げることができた。

またメインの牛にはこだわりがあり、家畜牛のおっとりとしたイメージとは離れ、筋肉質で迫力のある牛をテーマに書き進めていった。畜産の「畜」の字は、金と銀の折り紙を周りに縁取ったことで、遠くから見ても目立つようにすることができた。作品を仕上げていく上で、一人ひとりが積極的に意見を出し合い、最終的には全員が納得のいく櫓を完成させることができた。

櫓の活動は夏休みから始まり、作業場所は薄暗い体育館下の駐輪場であった。夏は暑く冬は寒く、心が折れそうになったときもあったが、準備や組立に至る様々な過程の中でたくさんさんの協力があった。手伝いに来てくれる一年生や時間の空いた他部門の人たちの支えがあったおかげで、作業中はいつも明るく賑やかで、非常に充実した日々を過ごすことができた。

この活動で得たものはかけがえのないものであり、私に結果以上のものを与えてくれた。

来年は今年取ることができなかった優勝を目指して、畜産らしい櫓を作っていきたいと思う。



研究棟アート

研究棟アートとは、研究棟の壁一面に巨大な絵を掲げ、収穫祭が間近であることを知らせ、より多くの人に来ていただきたいと作られたものです。

この絵は縦15メートル横1.2メートルの白い布を10本繋ぎあわせることによつてできます。この絵のように研究棟アート部門みんなで力を繋ぎ合わせ、一つの大きな収穫祭を作り上げていこうという願いも込められています。

今年も例年通り校内から見える場所の絵は2年生が担当し、相北短大側の絵は3年生が担当しました。

去年は、収穫祭の間絵が破れずに無事だったので今年も去年と同様に固定する縄の本数を多くしました。湘北短大側の絵は破れず無事だったのですが、残念ながら校内から見える場所の絵が少しだけ破れてしまいました。幸い破れたのが少しだけだったので収穫祭の間ずっと絵を掲げられました。近くで見るととても綺麗で、また少し離れた恩名の交差点からでも見えたのでとても良い作品ができたと思います。

今年の作業が例年よりスムーズに、また早くに終了したのは、多くの方々のご協力があったからだと思えます。このアートを通してみんなの力が一つとなり、収穫祭の成功への祈りやこの収穫祭がすべて手作りの文化祭であるということも皆様にお伝えできたことと思えます。

家畜苑

今年の家畜苑は3年生3人と2年生6人でスタートしました。家畜苑は例年男子が多く今年も男子7人、女子2人でした。それでもみんな仲が良く今年の収穫祭シーズンで乗り切ることができました。これもわからないことを1から終えてくれた先輩方のおかげです。まず動物を入れる家畜動物をいれるこやの単管を組む作業から始まり2年生を中心に家畜苑門、小屋のバックボード作成、顔パネル、案内看板などの制作に取り組みました。順調に作業が進むときもあればついつい遊びすぎてしまうときもあり、しかし真剣にみんなで作業に取り組んでいたというのが印象的です。家畜は畜産マネジメント研究室、家畜衛生学研究室、富士農場などのご協力で今年も家畜苑を運営することができましたと思います。収穫祭当日は2・3年生、他の部門、また1年生の手も借りてみんなで協力できた私たち家畜苑メンバー全員感じています。来年は今年よりも個性あふれるメンバーが揃っていて楽しくなると思っていますがやるときはやる、遊ぶときは遊ぶ、けじめをつけてがんばっていきたいです。

そして何より「楽しく楽しく楽しく、そして楽しく楽しく楽しく」をモットーに頑張っていきたいです。



【結果発表】

体育祭

総合順位	9位
競技の部	8位
各学科対抗リレー(女子の部)	2位
応援合戦の部	6位
樽装飾	11位
神輿	最優秀神輿

東京農業大学農学部畜産学科畜友会 畜友会会則

第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
 - (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
 - (3) 機関紙「ふじみの」の発刊
 - (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
 - (5) その他第三条に付帯する業務

第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正会員 畜産学科の学生
 - (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生

第六条

(3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

本会は次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 執行委員 委員 1名
副委員長 2名
庶務 2名
会計 2名
企画・渉外 2名
編集 2名
監事 4名

第七条

(1) 会長は会を代表し、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。

(2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。

副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条

- (1) 本会には連絡委員を置く。
- (2) 連絡委員は1、2年次からそれぞれ4名、各研究室から1名選出する。連絡委員は各学年および各研究室の意見を掌握し、連絡

第九条

委員会での意見を反映するとともに執行委員会での決定事項を会員に伝達する。

役員および連絡委員の選出および任期

- (1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会長および監事は、会長が畜産学科教職員の中から推薦し、総会において決定する。
- (2) 執行委員は、執行委員会の推薦に基づき総会において決定する。但し、委員長は3年次生、各執行委員の2名の内1名は3年次生、ほかの1名を2年次生より選出するものとする。尚、監事4名の内の2名は畜産学科教職員がその任にあたる。また、監事はほかの役員を兼任することはできず、その任期は原則として1年とし、再任を妨げない。
- (3) 執行委員に欠員を生じた場合は、執行委員会に諮り補充することができる。
- (4) 連絡委員は、各学年（1、2年次）および各研究室（3、4年次）で協議のうえ選出する。また、任期は原則として1年とし、再任を妨げない。

第四章 総会

- 第十条 (1) 総会は定期総会とする。
- (2) 総会は正会員および特別会員を持って構成され、本会の最高意思決定機関とする。

第十一条

総会開催は七日以前に公示しなければならぬ。

第十二条

(1) 総会は正会員および特別会員の4分の1以上の出席により成立する。

(2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長に一任する。委任状は総会の定足数に含まれるが、正会員および特別会員の5分の1を上限とする。

第十三条

(3) 委任状の検査は執行委員が行う。定期総会は次の事項を決議する。

1. 前年度の事業報告および収支決算報告
 2. 次年度の役員
 3. 次年度の事業計画および収支予算
 4. 会則の改正
- その他

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指名することができる。

第十五条

議長は書記2名と議事録署名人2名を選出す

る。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教職員とする。

第十六条 総会の議決は出席者の過半数によって議決され、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第十七条 総会出席者により執行委員の不信任を可決することができる。但し、この場合の出席者には委任状は含まない。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条 (1) 第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機関たる執行委員会を構成する。

(2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員会に出席することが出来る。

第十九条 執行委員会は原則として月一回委員長が招集する。執行委員会は執行委員の3分の2以上により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十条 執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一条 執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十二条 連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開

催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

1. 執行委員会で決定した事項の伝達。
2. 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三条 本会の事業年度および会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月末日までとする。

第六章 会計

第二十四条 本会の運営は会費および寄付金ならびにその他の収入を以ってこれにあてて。但し、第四条の目的を達成のため臨時徴収する場合もある。

第二十五条 (1) 会費は年間二、五〇〇円とし、入学時に一括して一〇、〇〇〇円を納入する。編入・転学科学生は学年に応じた金額を一括納入する。但し、一度納入した会費は返金しない。しかし、入学取り消しの場合はその限りではない。

(2) 会費は会長および委員長連名で毎年6月に入学対象者に対して請求するものとする。本会の会計は、所定の形式に従って処理し、

決算はすべて監事の監査を経なければならない。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七条 (1) 第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もって執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八条 (1) 第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九条 監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十条

監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

第十章 付則

第三十一条 本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二条 本会則は、昭和35年6月29日に制定された東京農業大学畜産学科「畜友会」規約を平成元年7月7日に一部改正し、それを元に平成10年2月20日に新たに東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則を制定し施行する。本会則は、前会則の一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

畜友会収穫祭内規

第一章 目的

第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条 収穫祭は東京農業大学農学部厚木支部収穫祭規定第1条及び第9条に基づく収穫祭に参加する。

第二章 組織および役員

第三条 収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

1. 統一本部
2. 宣伝隊実行本部
3. 特別企画実行本部
4. 学内装飾実行本部
5. 家畜苑実行本部
6. 体育祭実行本部

第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

- 統一本部顧問 若干名
- 統一本部委員長 1名
- 統一本部副委員長 1名
- 統一本部会計 1名

各実行本部顧問 若干名
各実行本部委員長 各1名
各実行本部会計 各1名

第五条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より畜友会会長がこれを委嘱する。

(2)統一本部委員長は畜友会執行委員、統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部委員長および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、畜友会会長の了承を得てから委嘱する。

(3)統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

第六条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

(2)統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。

(3)各実行本部委員長は各実行本部の運営を担当する。

第七条 実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。

(1)6本部会議は、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部

会計ならびに各実行本部委員長、で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。

(2)各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部委員長および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部委員長がこれを務める。

第三章 会計

第八条 収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。

第九条 予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。

第十条 会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

第十一条 決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章 付則

第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会で承認を得る。

第十三条 本内規は平成15年6月1日よりこれを実施す

る。
本内規は前内規を一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

幸せな日々

統一本部委員長
3年 川添 友誠

今、思えばあつという間の三ヶ月だった。しかし、充実かつ楽しい三年間だった。去年は完璧ダメ人間だった自分も同級生をはじめ、個性が溢れ出過ぎる現2年生、初々しい新入生がいたからこそ自分はここまでやってこられたんだと収穫祭や体育祭が終わって気づいた。

一昨年は、体育祭で総合優勝を経験させて頂きました。去年は、5位という結果に終わりのすごく悔しかったのを覚えています。今年こそは「王者奪回」を目標にしました。各部門の委員長さんをはじめとする役員の方はプレッシャー、責任感のような物が押し掛かっていたと思う。もちろん、自分もその一人です。しかし、決して自分は「俺は頑張った！」と胸を張って言えない。むしろ、「俺はみんなを上手くまとめていたのか?」「みんなのモチベーションを維持・持ち上げられていたのか?」と様々なことを考えてしまう。というのも、みんなが個々に自分の仕事や役割、立場を考えてベストを尽くしてくれたからこそ今年の収穫祭や体育祭は完成度の高いものができたと思います。

最後に、畜統の三年生!こんな俺について来てくれてありがとう。また、いつか収穫祭・体育祭の出来事やバカやった事を笑って話したい。(笑)

二年生!頼りない委員長でごめんね!でも、来年は君たちの年だ!やりたい事を諦めず、チャレンジし続ける事が悔いのない楽しい収穫祭・体育祭に導いてくれる。だから、諦めずに己の道を

みなさんありがとう

特別企画委員長
3年 黒沢 文香

今年の収穫祭は昨年に引き続き本当に楽しく作業することができて、しかも当日も私は成功に終わったと思っています。まず総務部と3学科のみなさんに感謝します。わたしたちなんかよりも総務部は何倍も大変だったのにメモリーズ、私たちの企画まで全部全部面倒を見てくれました。収穫祭前日まで相談に乗ってくれて、寝る間も惜しんで仕事をしてくれました。音響さんとの打ち合わせや、外部からくる出演者のひととの打ち合わせも本当に大変だったと思います。お金のことも、時間のことも、何からなにまでやってもらいました。私は総務部の人たちがいたおかげで、収穫祭を成功させることができました。大好きです。本当にありがとうございました。ゆつくり休んでください。そして農学部 皆さん、本当に楽しかったですね。一緒に段ボールの小屋を作りました。そしていろいろなことをしました。最高でした。セラも結構話しました。大変なこともあったと思うけどセラの企画面白かったです!

さてこんなところで、畜産学科の2年生。ひろ、しょうた、げんき、ゆうた。文章で書ききれないくらい感謝しています。わたしがい人しかいなくてしかも頼れない中、毎日が楽しかったです。授業が終わって小屋に顔だしたときに誰かがいたときに、何とも言えない感じにうれしくて、いつも「くろさん、なんかしますか?」って不器用ながらも、ハートつくって背景作って、完成式のネタ考えて、寝て、体育祭のダンスして、個人練よばれて、遊んで遊んで・・・あつという間に当日を迎えました。今年2年生に司会を全部任せました。読み合わせもそこにステージ

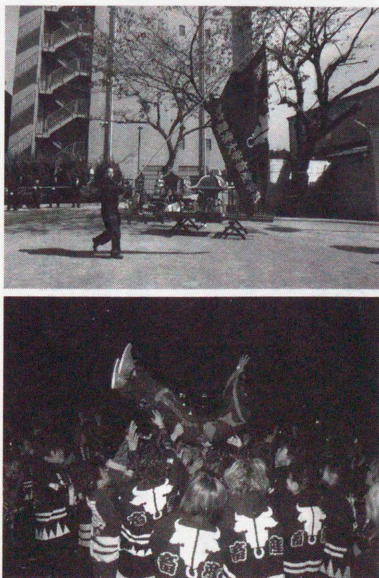
突き進め!!悩んだら、誰かに相談しろ!そういう事を自分から起こす事で仲間意識は今以上強くなるはずだ!

一年生!部門も決まり、ウキウキ・ワクワクしている人もいれば不安でいっぱいの人もあると思う。でも、これだけは言える。「誰一人欠けてはいけない。」最高の収穫祭・体育祭を作り上げるには皆の「フレッシュさ」と「個性」が欠かせないからだ。新二年生となり、学業も辛いかもしれないけど皆耐えてきた試験だ!諦めずに畜産学科統一本部を続けてほしい。

そして、新入生へ!ご入学おめでとうございます。畜産学科統一本部とはサークル紹介では伝えきれない感動や楽しさがたくさんあります。是非、参加してほしい!そのフレッシュさで僕たちと一緒に畜産学科を新しく楽しい学科にして行こう!!

こんな粗末な文のあとですが、半澤学科長をはじめとする諸先生方におかれましては今年一年多大なご協力を頂き誠にありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

でもやっぱり総合優勝したかった。涙



リハもそこそこに・・・当日は最高のステージを見せてくれてありがとう。子供企画のバルーンも、みんな風船ふくらましたり、小さい子に作り方教えてあげたり、一生懸命がんばってました。4人とも本当に特別企画に入るために農大に来たんじゃないかって言うくらい、人並み外れたセンスを持っています。人前に立つ度胸もあるし笑いのセンスもある、中には特別お金に困っている人もいますし、多国籍の人、本能のままに生きる人もいます、個性が強すぎるけど4人が協力したらとっても楽しいステージができるはず。さらに下に男の子2人はいつてくるっていうからもつともつたのしみですね☆若い人からお年寄りまで楽しめるステージを作ってください。来年本当に楽しみにしています。ありがとうございました。



臙脂と紺、あなたはどっち？

宣伝隊長

3年 野迫 昌平

まず始めに、宣伝隊は他部門と違い二枚の法被を使い分けます。六本部の宣伝隊本部として着るお馴染みの臙脂(えんじ)色の宣伝法被。そして、畜産学科統一本部として着る畜産法被と委員長法被があります。基本的に宣伝活動など外部で活動するときは宣伝法被を、団結式や慰労会など内部で活動するときは委員長法被を使います。個人的には、やっぱり委員長法被が一番好きですね。

さて、去年の交代式で先輩から委員長法被を託されてから隊長としての1年が始まりました。同時に、委員長法被はその名の通り部門の長が着れる法被です。法被と一緒にきてきたプレッシャーとも戦う1年でもありました。宣伝隊は3学科合同で、応援団の新田さんと宮川君と一緒に1年間フルで活動でした。総務相手に予算折衝で戦い、毎週会議して、宣伝活動やって、飲み会やつととハードスケジュールの日々。疲れも尋常ではない中よく頑張つてこられたなと思います。疲れも尋常ではない中、各駅宣伝や厚パレ、その他イベント参加のために警察や市役所で許可を取ったり、教室や公用車の予約のために総務部やサービスクレ行ったりと大学内外問わず、本当に走り回っていました。時たま「こんなに頑張つて、なぜ時給が出ない!」と思うこともあったり、なかつたり。

宣伝隊としては、去年に比べ今年はいろいろあつた年でした。宣伝隊全員がそろうことが奇跡だった会議、台風の襲来、店回りの公用車事件、大五郎白波瀬などなど挙げたらキリがありません。また、学科隊長としては、人をまとめることの難しさを実感させられた1年でした。今年の2年生はキャラが強く、特にうち

の當間、ゆま、齒染尾は特徴的ですが畜産だなあと思うくらい難しかった!去年の薫さんをはじめとする歴代の先輩方を改めて尊敬させられました。

今年の来場者数は3万5千人と目標には及びませんでした、みんなと一生懸命一つの目標に向かって充実した活動が出来てよかったと思つています。

齒崎へ2年間一緒に付いてきてくれてありがとう。いろいろとサポートしてもらつても助かりました。あと1年間、ゆまと齒染尾をよろしく。

2年生へ 當間、ゆま、齒染尾は初めてづくしの1年間で大変だったと思います。これからは先輩の愚痴や不満を言いながら、自分たちがやりたい楽しい宣伝が出来るね。新しい1年生と共にお前たちにしか出せない宣伝隊の色をつくつて頑張れ!

先輩方へ 差し入れや様子を

子に見に来てくれたりしてくれて、ありがとうございました。1年経つてみて先輩方の苦勞が今になって分かりました。やっぱり先輩方はすかつたです。あと、委員長法被洗つてしまつてすいませんでした!



畜産神輿、ナンバーワン!

神輿隊長

3年 粟野 隆彦

「ミートینگルーム2」こう記された鍵を握りしめ、蝉時雨の中、体育館下の二室へと向かった。鍵を開け、ビニールシートを敷き、工具箱や卓上糸のこ盤を次々と運び入れた。そう、ここは通称「神輿小屋」である。8月6日、自分達の神輿製作が始まつた。

隊長を任された自分は、一昨年の金賞、昨年の銀賞という過去の成績が、神輿を作る上でプレッシャーに感じていたが、それと同時に「このメンツならイケるんじゃないか?」という気持ちもあつた。昨年は「動き」をつけた斬新さで賞を獲つたが、今年は、形は一般的な神輿の形で、神輿の各所に畜産学科らしさを押し出し、尚且つ寸法通りで誤差の無い綺麗な神輿をテーマに製作を進めていった。

まず、神輿の要となる担ぎ棒の製作から始めた。担ぎ棒の大きさは昨年同様、体育祭での審査規格いっぱい2800ミリ×1800ミリとした。これにより、一度に担げる人数は18人となる。これだけの大人数で担げる神輿は、例年を見ても畜産学科だけであり、畜産学科の神輿のアイデンティティでもあつた。そして色は、お祭りの「ねじり鉢巻き」をヒントに、担ぎ棒を紅白に塗る事にした。これが功を奏し、見る人に印象を与えられるようなものとなつた。

次に、担ぎ棒より上の部分の製作であるが、全てを徹底的にこだわつた。担ぐ人の負担を減らす為、使用するベニヤ板は例年に比べ薄いものを選び、軽量化を図つた。一目で畜産学科と分かる様、ベースとなる土台の部分には「畜産学科統一本部」と文字を

彫り、屋根下の部分には、学科旗に描かれているものと同じ、牛のマークを彫つた。彫つた箇所の裏側には、障子紙を貼り、内部にLEDを仕込んで行燈の様にした。これにより、畜産学科をアピールする事ができたと思う。また、配色にも気を遣い、担ぎ棒が紅白である事とのバランスを考慮し、金、赤、黒だけに絞つた。自分を含め、神輿隊全員が妥協を許さなかつた為、部分ごとの形、色、材質について、時には何時間も話し合つた。それ故に製作が進まなかつた時もあつたが、全員で「モノづくり」を考えるその時間が楽しかつた。また、時間が経過していくにつれて2年生の製作スキルが向上していく事も嬉しかつた。

こうして、各々の持つ知恵と技術が盛り込まれた神輿が完成した。統一のみんなには好評で、努力が認めてもらえたようで嬉しかつた。体育祭の神輿投票では、農学科のクオリティが高く不安もあつたが、見事に金賞という輝かしい成績を取つた。約3ヶ月間、頑張つてきて本当に良かったと思う。未ちゃん、そして2年生、本当にありがとう。

最後にこの言葉で締めくくりたいと思う。

「神輿に完成は無い」



たのしかった、うんどうかい。

体育祭委員長

3年 清水 みらい

気付いたら畜友に入って、気付いたら委員長になって、気付いたら交代式を終えていた。そのくらいあつという間の2年間だった。しかしその2年間は毎日が畜友のことで頭がいっぱいだったと言っても過言では無い。そのくらい私の大学生活において畜友会という存在は大きかったと体育祭が終わってから時間が経ち、思う。

2年生の間は先輩たちに言われたことをひたすらやらなければいけなくて大変だったが今考えるとある意味楽しかった。しかし3年になれば自分で物事を考え、先輩に指示を出したりと自分の考え通りに出来る分、責任感とプレッシャーは常にあった。しかし、こんな自分の考えに賛同してくれたり意見をくれる体育祭の4人には知らない間に頼りにしていたと思う。そしてプレッシャーもあまり無くなっていたと思う。

体育祭当日、畜友会の集大成である応援合戦の直前に円陣を組もう！と言われ、円の中心で声かけをしている時は本当に嬉しくてちよつと涙が出た。体育祭委員長で本当に良かったと今までで一番思った瞬間だった。

体育祭の結果は惜しいとも言えない順位で終わったが、皆で騒いだりと本当に楽しい体育祭だった。あれだけ優勝したいと言っていたのに、不思議と悔いはない。

それでは体育祭のみんなへ。はるか！もう今年どうだったとか考えなくて良いから、来年は踊りを率先する位の気持ちでやって欲しいな！と思います。さんべー！いつも悩んでますね(笑)時には発想の転換も大事だよ！来年は何も考えられないくらい作業

関わってくれた皆さんに感謝

樽裝飾委員長

3年 吉原 麻代

まずはじめにいきなりですが、畜産学科統一本部樽部門を務めた2年生の皆さんお疲れ様でした。皆さんといっても4人な訳で、3年生は委員長である私一人な訳で・・・5人という少ない人数ですごく楽しい活動をしていました。皆さんご存知の通り畜産学科の樽の活動場所は体育館下のコンクリではなくまさかの砂利・・・そして風通し抜群！雨の降りこむ率100%！というなんとも自然の力を充分に思い知れる立地条件となっております。そのような環境でも5人で毎日仲良くわいわいやっておりました。後半なんて、家畜苑も体育祭も神輿もどの部門も樽へ集まってきたり何やかんや夜通し暇になることなんてありませんでした。

そんな中、私が畜友会を通じて感じた事は仲間の大切さです。樽は3年生が1人だったからか、私がぼけキャラだったからか、本当にたくさんの人が支えてくれました。作品に対して自信が無くなった時も、委員長としての道に迷った時も皆が助けてくれました。本当にありがとうございます。かといって私は何の役にも立てなかったような・・・とほほ

そして樽2年生の皆様!!4か月間の頼りない委員長に付き合ってくれて本当にありがとう。ほんとにノープランで行き当たりばったりでごめんね。下書きやるぞってなったらOHPがなかったり、下書きしたら縮尺間違ったりで、最初から失敗の連続だったよね。その度に5人で話し合ってたや、最初から失敗の連続だったよね。その度に5人で話し合ってたや、最初から失敗の連続だったよね。完成式一週間前にメインの牛で行き詰まった時、納得いくまでやり直ししようって一言はすごく嬉しかったし、良い後輩持ったなって思ったよ。

調子の良い言い方もしませんが、今年度の樽は私一人の意見でなく、皆の意見を取り入れながら作りました。皆で作った樽

しまくってください。まーくん！男1人でやり辛かっただろうに本当に頑張ってくれて嬉しかったです。来年は委員長として、俺について来て！って毎日みんなに言ってるやれ!!3人とも何かあったらメールでも電話でも飲みでも(笑)、相談聞き遊び相手もするし。ぎりぎりまでは自力で頑張れ。笑

そして宇畑泰子！初対面は知らない子だし良い子そうだし私と合うのか本当に心配でした、多分やすも同じだったと思う。けど実際、2年間やってきて上手い具合にいったんじゃやないでしようか。本当やすで良かったです。あ、ダンス上手いよね。

体育祭部門だけじゃなくて畜友のみんなありがとう！本当毎日楽しくて、何か変な1年生、私のことバカにするけど仲良くしてくれる2年生、一緒に頑張ってきた3年生みんな最高だ！

本当にみんなありがとう、畜友会の一員であり、体育祭部門であり、委員長であり、委員長の宝物です。

最後に、体育祭当日含め長い間協力してくださった先生方、畜友会のOB・OGの皆様、畜産学科の皆様、本当にありがとうございます。ありがとうございました。



だから私はすごく満足しているし、何度もいうけど後悔のない作品が出来たと思っっています。どこのだれが何と言おうと、私の信頼できる仲間が認めてくれた今年度の樽は紛れもなく金賞です。来年は今までに見たことのないような素晴らしい樽を期待しています。今からすごく楽しみです。なぜならこのメンバーだから、私が自信をもって自慢できる最強のメンバーが揃っているからです。

来年度委員長のれかちゃん！あたしみたいになっちゃだめだよ(笑)

ちゃんプランを立てて！ご利用は計画的に！でも私直伝のなんとかなる精神は大切だと思っよ(笑) そしてあつき！お母さん！何事にも真面目に真剣に取り組むタイプです。このゆるい樽にはなくてはならない存在！さらにイワンコフことゆつき！皆うるさいしすぐ喧嘩するからゆつき！がいて本当に助かりました(笑) 最後にデイズニーさやちゃん！私の心配を余所に持ち前の明るさですぐに馴染めていて、感心しました。

皆ほんとに本当にありがとうございました！楽しく充実した日々をありがとうございました！畜友会最高です!!!



！ミシン！ミシン！

装飾委員長

3年 水主 裕太

小3の頃からなぜだかおばあちゃんと呼んでいたわけではなく、大学2年の頃からなぜだかミシンを必死で動かしていた。そう、これが僕たちの熱いシーズンの始まりでした。

大学2年の夏、僕は装飾なんて色塗りをしながらゆるく楽しくしてあげたいと思っていました。しかし、それは間違っていました。毎日毎日ミシンミシンミシン！色塗りなんて遠い夢。正直同じ歳のやつにミシンに関しては負ける気がしません。肩に何か取りついているのかと疑問に思ったこともあり。それでも一気に垂れ幕へ下書きを書き、少しずつ色が塗られ、完成してみると自分がこんなにも素晴らしいものを作っていたのか、こんなにもたくさんの人たちに見てもらえるのかと達成感で胸がいっぱいになりました。装飾のやりがいを知りました。

3年になり、ついでいく立場から引く張っていく立場へ。前委員長の雄太さんの凄さを改めて実感しつつ、僕は人を引く張るのが苦手なので、みんなが楽しく笑いあいながら作業ができる。そんな環境を目指して作業をしてきました。

去年は風神雷神をテーマにし垂れ幕で、夜に光るという仕掛けを施しました。今年のテーマは鳳凰でした。今年は予算の関係上、仕掛けを入れることはできませんでしたが、その分、絵にこだわることができました。そして、鳳凰のように雄大で、躍動感のある収穫祭になればいいなという自分の願ひも込めました。

さて、僕は1つだけ悔いが残りました。それは2年生の垂れ幕が風で破れてしまったことです。慣れない作業の中であんなに一生懸命にデザインを考えていたのにも関わらずにです。あれは僕

9人の色で染まった家畜苑

家畜苑委員長(苑長)

3年 高崎 淳史

1年前に猪瀬前苑長から家畜苑長法被を譲り受けてから、私の苑長としての一年が始まりました。次年度の苑長発表の際、猪瀬前苑長が呼んだのは私の名前でした。一度は畜友会を辞めたいと言った私の名前が呼ばれ、正直「なんで俺なんだ、俺には無理だ。後輩達をまとめていく自信なんかない」とそう思いました。しかし、歴代苑長の名が刻まれた法被をかけてもらった以上、「先輩方の名に恥じないように頑張ろう。俺の家畜苑を作ろう」という決心しました。

苑長として、私は「楽しく楽しく楽しく楽しく楽しく！家畜苑らしく！」をモットーにみんなをひっぱって来ました。43代目家畜苑メンバは、本当に個性的で遊ぶ時はドンチャン騒ぎで、毎日楽しませてくれました。しかし、仕事はきちっとこなして「やる時はやる。遊ぶ時はとことん遊ぶ」とてもケジメのついでメンバでした。

1年の頃から手伝いに行き、同じ家畜苑として2年間共に過ごしてきた、大村捷。俺ができなかった仕事を、愚痴も言わず2年生に教えてくれた事は本当に感謝しています。けど、シーズン中の体重管理はできてなかったぞ！

使えないパソコンでの書類作りをいつも助けてくれた、今井星良。3年唯一の女の子として、俺らにできない小物作りや、バター作りを担当してくれました。中でもバター作りは星良のおかげで例年よりも大盛況でした。ありがとう。そして、あんなにたくさんパンを一人で買いに行かせてごめんさい。あいつがしゃべりました。あいつあいつ！

たち3年の責任だと思えます。2年生のは本当に申し訳ないことをしてしまいました。けれど、来年はその思いをバネに僕たちの垂れ幕よりいいものを作ってくれることを期待しています。来年も収穫祭を外からも盛り上げてください。

今思い返すと、なんであんなにも大変な作業をしてこれたのかと不思議に思うことがあります。それは畜友会のみんなのおかげです。疲れていてもみんながいるから笑って作業ができるという最高で最強の環境でした。みんなには感謝に気持ちでいっぱいです。そして小泉、いつも盛り上げてくれてありがとう。野村ちゃん、よくついてきてくれました。頼りない委員長だったので2年生にはたくさん助けられました。来年は任せただ。最後にちーちゃん、いつも笑顔でつらい顔せずに作業していましたね。ちーちゃんと一緒に2年間やってこれてほんまによかった。ありがとう。ちーちゃんがおらんかったら、完成できなかったと思います。

畜友最高！！！！！！



門部隊の、周平・清宏・裕喜。一好きなようにやってくれ！とは言いましたが、予算を考えるのも大事です。でも、あの完成度は俺らには真似できなかったと思う。ありがとう。

絵部隊の、聖喜・憲佑。聖喜の絵は、誰が見ても上手い！と言っていて、苑長としてとても誇りに思えた。けん！普段、ふざけてばかりのお前が、一生懸命になって絵をかく姿を見て、やる時はやるんだな！と感動した。二人ともありがとう。

星良部隊の、みつちー。戸惑いながらも、一生懸命バター作りの説明をしてくれました。みつちーのバネに癒されました。こんな個性的なメンバだったから、戸惑うこともあったと思うけど、頑張ってくれてありがとう。

最後に第44代目家畜苑長・長谷川周平！俺が苑長となって、お前にはやりづらい所も色々あったと思う。けど、俺のかわりに2年生をまとめてくれたり、色々意見を言ってくれたり、お前がいてくれて助けられた部分は本当にたくさんあった。2年生は、個性的でいいものをたくさん持っている。来年は、お前らの6色の色で光輝く家畜苑に、染めてくれ。

みんな、俺についてきてくれて本当にありがとう。



編集後記

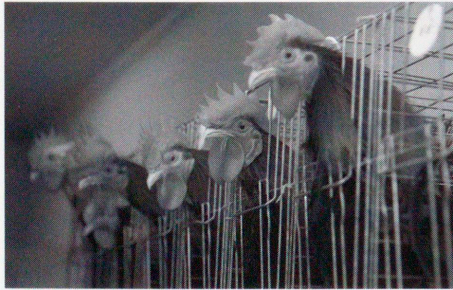
第49号目となる『ふじみの』を、今年も発行することができました。

第13回収穫祭は両日ともに晴天に恵まれ、大勢の方がお来し下さいました。毎年恒例の野菜の無料配布や家畜苑も大盛況に終わり、より地域に密着した行事になってきたことと思います。第121回体育祭は今年からオホーツクキャンパスの学生も参戦し、初めて総勢16学科で行う最高に盛り上がった体育祭でした。

この「ふじみの第49号」を発行するにあたり、お忙しい中御寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深く御礼申し上げます。卒業生の皆さま、また新入生の皆さまに畜産学科の伝統が少しでも心に残るものであればと願っております。

最後に、この一冊が今後の畜産学科の更なる発展を担うものになれば幸いと存じます。

編集委員長 3年 宇畑 素子



平成25年3月20日 発行	神奈川県厚木市船子1737
“ふじみの”第49号	東京農業大学農学部畜産学科畜友会
発行所	電話 046(270)6220(総務課)
ふじみの執行委員 宇畑 素子	東京都荒川区西尾久7-12-16
三瓶 かすみ	印刷所 創文印刷工業株式会社
	電話 03(3893)0111

